

学生意識調査 2013 年度

はじめに

「大学・学生意識調査」の大きな目的の一つに、学生のおかれた状況や不満等を客観的に把握し、大学生活における彼ら（彼女ら）の満足度を向上させることを挙げることができるが、この調査は 2002 年より毎年実施され、これまで学生の学業や生活等に関して様々な情報を提供してきた。しかしながら、調査項目の妥当性や分析したデータの効果的な活用法等に関しては検討・議論の対象になることは希有で、今日に至っている。また、学生の大学に対する具体的要望に関しても、誠意をもって迅速に対応してきたとは言いがたく、「大学・学生意識調査」の位置づけが問われているようである。

調査項目が多岐にわたる「大学・学生意識調査」がシステムとして機能するためには、学内で行われている他の様々な調査やアンケートや大学全体の自己点検システムとの連動が不可欠で、「学生の声」が大学運営にダイレクトに届く環境の整備が急務である。

現在、学生支援委員会において今後の「大学・学生意識調査」のあり方を検討しているが、既の実施し、データの集計が完了している昨年度の調査に関しては、日々の大学生活に関係が深い項目に焦点を絞り、データの整理・分析を行い、問題・課題に対しては対策案を纏め、また、それ以外の調査項目のデータに関しては、グラフを使って過去 5 年間の経年変化を示すこととした。

なお、本調査の回答者の総計は 295 名で、下記の項目に沿ってデータの整理・分析を行っている。

I 学生生活について（学生支援委員会による分析）

A) 基礎的統計情報	・・・・・・・・・・	2 頁
B) アドバイザーに関する情報	・・・・・・・・・・	3 頁
C) 通学状況に関する情報	・・・・・・・・・・	6 頁
D) 大学施設の使用に関する情報	・・・・・・・・・・	8 頁
E) その他の調査結果	・・・・・・・・・・	10 頁

II 学習について（教育支援委員会による分析）

A) 学習一般	・・・・・・・・・・	22 頁
B) 自己と他者	・・・・・・・・・・	23 頁
C) 学習一般	・・・・・・・・・・	24 頁
D) 授業選択	・・・・・・・・・・	26 頁
E) 受講の実態	・・・・・・・・・・	29 頁
F) コース選択	・・・・・・・・・・	32 頁

長崎外国語大学
学生支援副部長
川島 浩勝

I 学生生活について

A 基礎的統計情報（回答者の男女別、学年別、日本人学生・留学生別内訳）

【設問 1】「あなたは日本人ですか？それとも海外からの留学生ですか？」

【設問 2】「あなたは現在、大学何年生ですか？」

【設問 3】「あなたの性別は？」

設問 1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 日本人学生											78.7%	72.5%
2 留学生											21.3%	27.5%

設問 1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？

	2013全体	全体女子	全体男子	1年全体	1年女子	1年男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 日本人学生	72.5%	75.0%	67.6%	0.0%	0.0%	0.0%	91.7%	92.5%	89.7%	53.1%	58.7%	42.4%	74.3%	75.0%	73.3%
2 留学生	27.5%	25.0%	32.4%	100.0%	100.0%	100.0%	8.3%	7.5%	10.3%	46.9%	41.3%	57.6%	25.7%	25.0%	26.7%
回答数	295	188	105	6	4	2	121	80	39	96	63	33	70	40	30

設問 2. あなたは現在、大学何年生ですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 大学2年生				34.3%	39.5%	37.9%	28.7%	37.3%	40.7%	35.0%	46.5%	41.3%
2 大学3年生				31.0%	21.3%	27.7%	29.8%	14.0%	29.5%	28.2%	21.3%	32.8%
3 大学4年生				34.6%	39.2%	34.4%	41.5%	48.6%	22.0%	32.6%	26.7%	23.9%
4 大学1年生								7.8%	4.2%	5.4%	2.0%	

設問 3. あなたの性別は？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 女性	60.7%	61.1%	62.4%	57.5%	50.3%	55.2%	57.4%	61.1%	62.7%	57.7%	57.1%	64.2%
2 男性	39.3%	38.9%	37.6%	42.5%	49.7%	44.8%	42.6%	38.9%	37.3%	42.4%	42.9%	35.8%

参考：2012年度 学生意識調査 結果

設問 1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 日本人学生											78.7%
2 留学生											21.3%

設問 1. あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？

	2012全体	全体女子	全体男子	1年全体	1年女子	1年男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 日本人学生	78.7%	84.1%	64.9%	28.6%	50.0%	0.0%	67.5%	72.5%	66.0%	92.7%	100.0%	85.2%	97.1%	97.7%	96.0%
2 留学生	21.3%	15.9%	35.1%	71.4%	50.0%	100.0%	32.5%	27.5%	34.0%	7.3%	0.0%	14.8%	2.9%	2.3%	4.0%
回答数	258	145	97	14	6	7	120	69	47	55	26	27	69	44	25

設問 2. あなたは現在、大学何年生ですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 大学2年生				34.3%	39.5%	37.9%	28.7%	37.3%	40.7%	35.0%	46.5%
2 大学3年生				31.0%	21.3%	27.7%	29.8%	14.0%	29.5%	28.2%	21.3%
3 大学4年生				34.6%	39.2%	34.4%	41.5%	48.6%	22.0%	32.6%	26.7%
4 大学1年生								7.8%	4.2%	5.4%	

設問 3. あなたの性別は？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 女性	60.7%	61.1%	62.4%	57.5%	50.3%	55.2%	57.4%	61.1%	62.7%	57.7%	57.1%
2 男性	39.3%	38.9%	37.6%	42.5%	49.7%	44.8%	42.6%	38.9%	37.3%	42.4%	42.9%

回答者についての質問（設問 1、2、3）では、2005年度以降、学年別回答者数を調べているが、2012年度からは留学生と日本人学生の回答者数も調べている。2013年度の調査では、回答者総数は295人で、2012年度の258人より14.3%（37人）増加している。2013年度では、全体の27.5%の回答者が留学生であり、2012年度の21.3%よりも割合が大きくなっている。

学年別・男女別の回答者数を見ると、大学1年生は、2012年度と同様にすべて留学生（秋

入学生)であるが、2013年度は回答者数が6人で、2012年度の14人と比べると半数以下になっている。大学2年生は回答者数が121人で、2012年度の120人とほぼ同数であるが、2012年度では大学2年生の32.5%(39人)が留学生であったのに対し、2013年度では8.3%(10人)しか留学生がいなかった。

大学3年生は回答者数が96人で、2012年度の55人より74.5%(41人)増加している。2012年度では、大学3年生の7.3%(4人)が留学生で、大学3年生女子は0%(0人)、男子は14.8%(4人)が留学生であったが、2013年度では大学3年生の46.9%(45人)、大学3年生女子の41.3%(26人)、男子の57.6%(19人)が留学生で、大学3年生の留学生回答者は2012年度に比べて実数で10倍以上になっている。一方で、大学3年生の日本人学生は、2012年度、2013年度ともに55人で実数には変化がなかった。よって、大学3年生の回答者数の増加はすべて留学生の回答者の増加によるものである。

大学4年生は回答者数が70人で、2012年度の69人とほぼ同数であるが、2012年度では、大学4年生の2.9%(2人)が留学生で、大学4年生女子は2.3%(1人)、男子は4.0%(1人)が留学生であったのに対し、2013年度では大学4年生の25.7%(18人)、大学4年生女子の25.0%(10人)、男子の26.7%(8人)が留学生で、大学4年生の留学生回答者は割合、実数ともに8倍から9倍増加している。一方で、日本人学生は、2012年度では大学4年生の97.1%(67人)、大学4年生女子の97.7%(43人)、男子の96.0%(24人)であったのに対し、2013年度では大学4年生の74.3%(52人)、大学4年生女子の75.0%(30人)、男子の73.3%(22人)で、大学4年生の日本人学生は、割合、実数ともに2012年度の3/4程度になっている。日本人学生では、大学4年生男子の実数がさほど変化していないのに対し、大学4年生女子の実数が13人減って、2012年度の7割程度になっている。

上記の通り、留学生の割合・実数は、2012年度と比べると、大学2年生で割合、実数ともに大幅に減少し、大学3年生、大学4年生では割合、実数ともに大幅に増加している。日本人学生の割合・実数は、大学2年生では割合、実数ともに増加し、大学3年生では割合は小さくなっているが、実数は変わっておらず、大学4年生では割合、実数ともに減少し、特に女子の実数が減少している。大学2年生では、留学生の割合が8.3%で実数が121人中の10人であるため、大学2年生については、日本人学生と留学生を分けて回答結果の分析をすることは困難と考えられる。

大学3年生は大学2年生、大学4年生に比べて回答者数が少ない傾向があるが、2013年度では、大学3年生回答者数が大学4年生回答者数を上回った。しかし、日本人学生の回答者数だけを見ると、大学3年生の回答者数は大学4年生の回答者数よりも少ない。2年次秋学期から留学中の学生がいなかったことが理由の一つと考えられる。一方で、留学生は3年次の編転入生の数が1年次入学生、2年次転入生の数よりも多いので、大学3年生、大学4年生の回答者数が大学1年生、大学2年生の回答者数よりもはるかに多い。

2010年度からは前年度秋学期に入学した1年生(4月時点で第2学期生)を分けて集計している。学生の学年所属は調査時に在学何学期目であるかによって判定している。(ただし、回答者自身が、自分が何年生かを判断して回答しているため、学年分けを間違えて解答した学生がいる可能性がある。)1年生は全体で6名しかいないため、学年別・男女別の回答の分析では2年生から4年生の回答結果のみを対象とすることが適切と思われる。

男女別については、女子64.2%、男子35.8%で、例年の女子6割男子4割程度の比率と大きな差はないが、女子の比率がこれまでで最大になっている。

B) アドバイザーに関する情報

【設問14】「クラス・アドバイザーにはどういふことを相談していいと思いますか？」

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 学業に関する事のみ	7.5%	3.3%	8.7%	6.6%	7.9%	8.6%	13.8%	13.3%	15.5%	15.4%	12.5%	16.8%
2 学業に関することや、卒業後の進路 学業、卒業後の進路、個人的な悩み	50.4%	53.3%	49.5%	48.5%	44.1%	50.6%	44.4%	46.3%	45.7%	40.7%	35.0%	40.1%
3 みなどどのようなことでも相談して よい	29.3%	33.8%	30.8%	35.0%	35.2%	29.4%	28.4%	27.9%	30.4%	32.5%	32.7%	30.1%
4 何を相談していいのかわからない	12.8%	9.6%	11.0%	9.9%	12.7%	11.4%	13.4%	12.6%	8.4%	11.4%	19.8%	13.0%

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 学業に関する事のみ	16.8%	15.0%	19.4%	19.0%	17.5%	20.5%	11.7%	11.1%	12.9%	17.4%	12.8%	23.3%	18.3%	11.3%
2 学業に関することや、卒業後の進路 学業、卒業後の進路、個人的な悩み	40.1%	42.8%	35.0%	40.5%	43.8%	33.3%	43.6%	44.4%	41.9%	39.1%	43.6%	33.3%	36.3%	50.0%
3 みなどどのようなことでも相談して よい	30.1%	31.6%	28.2%	24.8%	27.5%	20.5%	30.9%	28.6%	35.5%	34.8%	41.0%	26.7%	27.8%	36.3%
4 何を相談していいのかわからない	13.0%	10.7%	17.5%	15.7%	11.3%	25.6%	13.8%	15.9%	9.7%	8.7%	2.6%	16.7%	17.0%	2.5%
回答数	292	187	108	121	80	39	94	63	31	69	39	30	212	80

「クラス・アドバイザーにはどういふことを相談していいと思いますか？」という設問に対して、全体（292人）の内、およそ4割（117人）が「学業に関することや、卒業後の進路の問題」と答えている。次いで、「学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどのようなことでも相談してよい」が約3割（88人）、「学業に関する事のみ」が16.8%（49人）、「なにを相談していいのかわからない」が13%（38人）である。学年、性別、日本人/留学生の区別に関わらず、序列は同様である。この序列は、調査開始の2002年度から変わっていない。

「なにを相談していいのかわからない」と答えた学生の学年別の内訳を見ると、1年生では0%（0人）、2年生では15.7%（19人）、3年生では13.8%（13人）、4年生では8.7%（6人）となっている。回答者数が極端に少ない1年生を除き、2、3年生と比較して、4年生では明らかにその割合が減少している。4年生では就職や卒業に関わる悩みが生じ、それをアドバイザーに相談しているのだろうと推測される。男女比で見ると、男性が17.5%に対し、女性が10.7%と、男性の回答率が高くなっている。日本人学生と留学生の比較では、日本人学生が17%（36人）、留学生が2.5%（2人）である。留学生の特色として、「学業に関する事のみ」と答えているのが11.7%（9名）と少ないことが挙げられる。大部分の留学生は、アドバイザーには学業以外（進路や個人的な問題）の相談もしてよいと思っていることが分かる。

【設問15】「あなたのアドバイザーとどの程度話をしていますか？」

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 頻繁に話をしている	3.0%	4.9%	3.0%	2.5%	3.4%	5.6%	7.3%	8.5%	7.9%	8.4%	10.2%	4.8%
2 時々話をしている	25.4%	20.0%	23.6%	22.9%	25.4%	32.3%	25.2%	28.5%	29.0%	25.8%	22.8%	19.9%
3 相談事があるときだけ話をしている	15.7%	15.5%	22.0%	21.8%	25.1%	21.0%	27.1%	24.7%	26.9%	21.6%	22.8%	29.5%
4 授業以外では全く話をしていない	23.9%	27.8%	27.2%	24.2%	28.5%	29.4%	27.1%	24.7%	22.7%	27.6%	20.5%	24.0%
5 全く話したことがない	32.1%	31.8%	24.3%	28.7%	17.6%	11.7%	13.4%	13.6%	13.6%	16.5%	23.6%	21.9%

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 頻繁に話をしている	4.8%	3.2%	7.8%	4.2%	2.5%	7.9%	4.3%	1.6%	9.7%	7.1%	7.5%	6.7%	4.7%	5.0%
2 時々話をしている	19.9%	20.2%	19.6%	21.7%	23.8%	18.4%	13.8%	14.3%	12.9%	21.4%	20.0%	23.3%	20.3%	18.8%
3 相談事があるときだけ話をしている	29.5%	34.6%	19.6%	24.2%	30.0%	10.5%	31.9%	36.5%	22.6%	34.3%	37.5%	30.0%	26.4%	37.5%
4 授業以外では全く話をしていない	24.0%	25.5%	20.6%	24.2%	23.8%	23.7%	30.9%	31.7%	29.0%	17.1%	22.5%	10.0%	25.9%	18.8%
5 全く話したことがない	21.9%	16.5%	32.4%	25.8%	20.0%	39.5%	19.1%	15.9%	25.8%	20.0%	12.5%	30.0%	22.6%	20.0%
回答数	292	188	102	120	80	38	94	63	31	70	40	30	212	80

全体（292人）の内、「頻繁に話をしている」が4.8%（14人）、「時々話をしている」が19.9%（58人）、「相談事があるときだけ話をしている」が29.5%（86人）、「授業以外では全く話をしていない」が24.5%（70人）、「全く話したことがない」が21.9%（64人）である。「頻繁に話をしている」が極めて低い割合になっている以外は、ほぼ均等に回答が分かれている。

「全く話したことがない」の内訳を見ると、1年生では0%（0人）、2年生では25.8%（31人）、3年生では19.1%（18人）、4年生では20%（14人）であった。2年生では4分の1の学生がアドバイザーと全く接触を持っていないことが分かる。そもそも学生が接触の必要性を感じていないという可能性もあり得るが、接触の機会が持てないという可能性も考慮しておかなければならないだろう。このことについては、設問16で詳

述する。男女比で見ると、32.4%の男性が全く話したことがないと答えている反面、女性は16.5%と低い割合となっている。多くの女性は、アドバイザーと何らかの接触を持っていることが伺える。日本人学生と留学生の比較では、日本人学生が22.6%（48人）、留学生が20%（16人）とほぼ同じ割合となっている。2012年度と比較すると、2012年度が23.6%、2013年度が21.9%と、アドバイザーと全く接触しないという学生が若干減っている。

【設問 16】 今までにアドバイザーと全く話したことがない人だけ教えてください。なぜ、今までアドバイザーと全く話をしたことがないのですか。

設問16. 今までにアドバイザーと全く話したことがない人だけ教えてください。なぜ、今までアドバイザーと全く話したことがないのですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 話したいと思う機会がない	27.1%	22.7%	37.0%	26.6%	27.5%	26.6%	16.7%	30.9%	37.3%	28.1%	28.0%	21.4%
2 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない	20.8%	15.5%	13.0%	18.0%	20.0%	26.6%	24.2%	14.9%	19.0%	29.5%	20.3%	25.2%
3 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない	6.3%	6.2%	5.4%	7.9%	6.3%	6.3%	19.7%	14.9%	18.3%	13.0%	16.1%	9.2%
4 特に話す必要がない	45.8%	55.7%	44.6%	47.5%	46.3%	40.6%	39.4%	39.4%	25.4%	29.5%	35.6%	44.3%

設問16. 今までにアドバイザーと全く話したことがない人だけ教えてください。なぜ、今までアドバイザーと全く話したことがないのですか？

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 話したいと思う機会がない	21.4%	21.4%	21.3%	21.3%	24.0%	19.2%	14.9%	10.3%	22.2%	30.3%	35.7%	26.3%	23.2%	18.4%
2 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない	25.2%	27.1%	23.0%	21.3%	20.0%	22.7%	31.9%	34.5%	27.8%	21.2%	28.6%	15.8%	20.7%	32.7%
3 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない	9.2%	5.7%	13.1%	2.1%	0.0%	4.5%	10.6%	10.3%	11.1%	12.1%	0.0%	21.1%	3.7%	18.4%
4 特に話す必要がない	44.3%	45.7%	42.6%	55.3%	56.0%	54.5%	42.6%	44.8%	38.9%	36.4%	35.7%	36.8%	52.4%	30.6%
回答数	131	70	61	47	25	22	47	29	18	33	14	19	82	49

上述の「全く話したことがない」と答えた学生に対し、「なぜ、今までアドバイザーと全く話しをしたことがないのですか？」という質問を行った。全体（131人）の内、「話したいと思う機会がない」が21.4%（28人）、「自分が消極的なため機会はあるが話すことができない」25.2%（33人）、「話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない」が9.2%（12人）、「特に話す必要がない」が44.3%（58人）となっている。半数以上が、話したいと思うが何らかの理由によって話せないと答えている。特に「機会がない」や「相談に乗ってくれそうにない」と答える学生が3割を超えていることは見逃せない。また、「自分が消極的なため」と答える学生に対する配慮が求められるだろう。

「話したいと思う機会がない」の内訳を見ると、1年生が50%（1名）、2年生が21.3%（10名）、3年生が14.9%（7名）、4年生が30.3%（10名）である。男女ともに5分の1程度の学生がこのように回答している。日本人学生と留学生の比較では、日本人学生が23.2%（19人）、留学生が18.4%（9人）という割合である。

「話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない」と答えた学生（12名）の特徴としては、3年生と4年生に集中していること（合計9名/12名中）、留学生に集中していること（9名/12名中）が分かる。3年生から編入の留学生が多数加わることから、一人のアドバイザーが多くの学生の対応をしなければならなくなる、という現状を反映していると推察される。来学期からの枠組みの改定（アドバイザーを増やし、担当する学生数を減らすこと）によって改善されることが期待できる。

【自由記述】

アドバイザー業務に関連する記述として、以下の三つを挙げる。内容は異なるが、いずれも教員の学生対応の不備を指摘したものだと思われる。

- (1) 教員の方々と支援課等、様々な部署の方との連携をはかってほしい。
- (2) 学校の中で先生方が制度を理解していないのは変だと思う。「僕は知らない。私の担当ではない」とか言われたら、学生と教授との信頼関係に関わるし、人間としてどう

かと思う。

(3) 学校の制度や仕組みについて、もっとわかりやすく提示したほうがいい。ルールを守った学生生活を行えるようにしてほしい。

(1)では、教員と各課室との連絡不足が指摘されている。(2)は、より重大で根本的な問題である。(3)は、特にアドバイザーによるオリエンテーションを行うときに注意しなければいけない点である。このような問題を防ぐことができれば、【設問16】の「話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない」といった状況を改善できるのではないかと考える。

C) 通学状況に関する情報

【設問 19】「通学時間はどのくらいですか？」

設問 19. 通学時間はどのくらいですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 5分以内	17.8%	13.8%	13.1%	17.4%	11.0%	15.5%	9.8%	15.5%	11.2%	10.5%	7.9%	9.9%
2 15分以内	47.4%	39.0%	41.3%	35.9%	36.8%	33.9%	42.6%	39.4%	40.8%	38.1%	37.5%	39.9%
3 30分以内	20.0%	26.0%	30.8%	29.1%	30.8%	31.1%	26.8%	27.6%	29.6%	34.5%	29.2%	29.4%
4 約1時間	9.6%	12.6%	10.5%	11.7%	14.5%	11.2%	11.3%	9.8%	11.5%	10.5%	17.0%	13.0%
5 1時間以上	5.2%	8.5%	4.3%	6.0%	6.9%	8.4%	9.4%	7.7%	6.9%	6.3%	8.3%	7.8%

設問 19. 通学時間はどのくらいですか？

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 5分以内	9.9%	13.4%	3.0%	12.5%	17.5%	2.6%	11.5%	14.3%	6.1%	2.9%	2.5%	3.3%	8.5%	13.8%
2 15分以内	39.9%	42.2%	35.6%	36.7%	35.0%	39.5%	36.5%	41.3%	27.3%	48.6%	57.5%	38.7%	39.4%	41.3%
3 30分以内	29.4%	26.2%	34.6%	27.5%	25.0%	31.6%	28.1%	23.8%	36.4%	35.7%	35.0%	36.7%	28.6%	31.3%
4 約1時間	13.0%	10.7%	17.3%	12.5%	10.0%	18.4%	16.7%	14.3%	21.2%	8.6%	5.0%	13.3%	13.1%	12.5%
5 1時間以上	7.8%	7.5%	8.7%	10.8%	12.5%	7.9%	7.3%	6.3%	9.1%	4.3%	0.0%	10.0%	10.3%	1.3%
回答数	293	187	104	120	80	38	96	63	33	70	40	30	213	80

「(2) 15分以内」が39.9%でもっとも高く、次いで「(3) 30分以内」が29.4%と高かった。通学時間が5分以内(9.9%)、15分以内、30分以内の回答を合わせると79.2%となり、本学に通学している約8割の学生は、30分以内の通学圏内に居住していると考えられる。また、経年比較を行うと、2012年度よりも2013年度の方が、「(4) 約1時間」と「(5) 1時間以上」と回答した学生の割合が減少しており、「5分以内」～「30分以内」の学生の割合が増加している。しかし、2002年度からの推移をみると、通学時間に年度によって若干の変動はあるものの、学生の割合としては、ほぼ横ばいであることがわかる。

学年・男女別の回答内訳についてみると、女子は、学年が上がるごとに通学時間「5分以内(2年17.5%、3年14.3%、4年2.5%)」と「1時間以上(2年12.5%、3年6.3%、4年0.0%)」と回答した学生の割合が減少していた。一方、「15分以内(2年35.0%、3年41.3%、4年57.5%)」と「30分以内(2年25.0%、3年23.8%、4年35.0%)」と回答した学生の割合が増加していた。このことから、学年があがるごとにアンペロス寮や保護者宅をでて、大学近隣や長崎市内のアパートで生活を始める学生が多いと考えられる。しかし、昨年度の結果では、4年生女子の通学時間が「1時間以上」の割合は、14.0%であり、2年生女子(8.8%)、3年生女子(7.7%)よりも多くなっていたため、今年度の4年生女子の傾向は、昨年度とは大きく異なると捉えられる。男子については、学年による変化はあまりなく、5分以内の通学時間が、4年生以外では、女子よりも少ないという結果であった。これも女子がアンペロス寮から通学する場合に、5分以内という回答になるためであると考えられる。

日本人学生と留学生の回答についてみると、通学時間「5分以内」の学生が、日本人学生8.5%、留学生13.8%であり、留学生の方が寮に居住している学生の割合が高いと考えられる。また、通学時間「1時間以上」と回答した学生は、日本人学生10.3%、留学生1.3%であった。日本人学生の1割程度は、大学より遠い保護者宅等から通学していることが考えられる。

【設問 20】「通学手段は次のうちどれですか？」

設問20. 通学手段は次のうちどれですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 徒歩	53.0%	41.5%	31.6%	30.2%	28.9%	30.8%	29.6%	28.8%	33.2%	29.0%	28.6%	36.8%
2 バス	25.4%	30.1%	34.9%	32.7%	29.9%	31.2%	34.6%	32.2%	40.3%	39.6%	40.4%	35.4%
3 JRとバス	2.2%	2.4%	2.3%	1.9%	4.4%	5.2%	6.5%	6.4%	5.2%	4.2%	5.5%	3.8%
4 電車とバス	2.2%	3.7%	2.3%	4.9%	6.9%	6.4%	5.0%	4.7%	4.0%	4.8%	4.3%	3.4%
5 自家用車	3.7%	10.2%	12.8%	7.4%	6.0%	6.0%	7.3%	5.8%	6.2%	5.7%	9.4%	7.2%
6 バイク	11.2%	10.2%	14.5%	21.2%	21.7%	18.8%	15.4%	16.9%	7.7%	11.8%	9.8%	10.3%
7 自転車	2.2%	2.0%	1.6%	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	5.1%	3.4%	4.8%	2.0%	3.1%

設問20. 通学手段は次のうちどれですか？

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 徒歩	36.8%	49.2%	14.4%	44.5%	53.8%	25.6%	36.5%	49.2%	12.1%	23.5%	38.5%	3.4%	35.5%	40.0%
2 バス	35.4%	32.4%	40.4%	28.6%	23.1%	38.5%	39.6%	39.7%	39.4%	42.6%	41.0%	44.8%	33.6%	40.8%
3 JRとバス	3.8%	3.8%	3.8%	5.9%	7.7%	2.6%	3.1%	1.6%	6.1%	1.5%	0.0%	3.4%	3.8%	3.8%
4 電車とバス	3.4%	2.7%	4.8%	5.0%	5.1%	5.1%	1.0%	0.0%	3.0%	1.5%	0.0%	3.4%	2.8%	5.0%
5 自家用車	7.2%	6.5%	8.7%	7.6%	7.7%	7.7%	8.3%	6.3%	12.1%	5.9%	5.1%	6.9%	9.0%	2.5%
6 バイク	10.3%	4.9%	20.2%	5.9%	2.6%	12.8%	9.4%	3.2%	21.2%	19.1%	12.8%	27.6%	11.8%	6.8%
7 自転車	3.1%	0.5%	7.7%	2.5%	0.0%	7.7%	2.1%	0.0%	6.1%	5.9%	2.6%	10.3%	3.3%	2.5%
回答数	291	185	104	119	78	39	96	63	33	68	39	29	211	80

「1) 徒歩」が36.8%でもっとも高く、次いで「2) バス」が35.4%、「6) バイク」が11.2%となっている。昨年度と比較すると「徒歩」の学生の割合が増え、「バス」の学生の割合が減っている。また、2004年度以降では、「徒歩」の学生がもっとも高い割合となっている。今年度、徒歩圏内に居住する学生が増えた可能性も考えられる。

学年・男女別の回答内訳についてみると、学年が上がるごとに「徒歩」の割合（2年44.5%、3年36.5%、4年23.5%）が低下し、「バス」（2年28.6%、3年39.6%、4年42.6%）と「バイク」（2年5.9%、3年9.4%、4年19.1%）の割合が増加している。男女別にみると、全体傾向とほぼ同じ変化である。

日本人学生と留学生の回答についてみると、両者の差が大きかったのは、自家用車の項目であり（日本人学生：9.0%、留学生：2.5%）、留学生は、自家用車を所有している学生が少ないと考えられる。

【設問 21】自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車、または、バイクで通学する場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？

設問21. 自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学する場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 受けている	45.0%	58.5%	45.1%	53.8%	40.6%	49.4%	40.3%	41.9%	43.4%	32.5%	34.9%	40.7%
2 知らなかったで受けていない	25.0%	5.7%	12.1%	15.4%	21.9%	23.5%	28.6%	35.5%	34.0%	36.8%	32.6%	29.7%
3 知っていたが、許可は受けていない	30.0%	35.8%	42.9%	30.8%	37.5%	27.2%	31.2%	22.6%	22.6%	30.7%	32.6%	29.7%

設問21. 自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学する場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 受けている	40.7%	48.8%	34.0%	46.7%	60.0%	35.7%	46.7%	50.0%	44.4%	34.6%	46.2%	23.1%	48.4%	24.1%
2 知らなかったで受けていない	29.7%	25.6%	31.9%	30.0%	26.7%	28.6%	23.3%	25.0%	22.2%	30.8%	23.1%	38.5%	30.6%	27.6%
3 知っていたが、許可は受けていない	29.7%	25.6%	34.0%	23.3%	13.3%	35.7%	30.0%	25.0%	33.3%	34.6%	30.8%	38.5%	21.0%	48.3%
回答数	91	43	47	30	15	14	30	12	18	26	13	13	62	29

自家用車やバイクでの通学許可を「(1)受けている」と回答した学生が40.7%となり、昨年度の34.9%より増加している。まそれに伴い「(2)知らなかったで受けていない」、「(3)知っていたが、許可は受けていない。」と回答した学生が、それぞれ32.6%から29.7%に減少している。これは、オリエンテーション等の効果と考えられる。

学年・男女別の回答内訳についてみると、どの項目も学年全体の差はあまりみられないが、男女間の差が大きくみられる。特に2年生、4年生において、許可を「受けている」と回答した女子と男子の割合の差が大きく、どちらも女子の方が許可を受けている割合が大きい（2年女子60.0%、2年男子35.7%、4年女子46.2%、4年男子23.1%）。この結果から、男子学生への啓発の必要性が考えられる。

日本人学生と留学生の回答についてみると、許可を「受けている」と「知っていたが受けていない」という項目に大きな差があった。許可を「受けている」と回答した日本人学生は、48.4%と約半数の学生が許可を受けているのに対し、留学生は24.1%であり、留学生の許可を受けていると回答した割合が低いことがわかる。また、「知っていたが、許可は受けていない」と回答した日本人学生は21.0%に対し、留学生は48.3%であった。留学生が、許可を必要なのは知っていたが、許可を受けていない割合が高いという現状が明

らかになった。自家用車やバイクで通学をする場合に、学校からの許可が必要なのを知らないのではなく、知っていたが受けていないのはなぜなのか、理由を明らかにし、さらなる対策を考える必要があると思われる。

D) 大学施設の使用に関する情報

【設問 28】「学内の施設で改善して欲しいものがありますか？」

設問28. 学内の施設で改善して欲しいものがありますか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
1 ラウンジ	5.4%	9.3%	9.6%	7.7%	8.8%	7.1%	9.0%	9.2%	8.7%	12.0%	3.9%	7.3%
2 食堂	50.0%	16.5%	32.5%	20.0%	23.3%	19.5%	23.5%	18.1%	32.7%	26.9%	34.8%	30.5%
3 トイレ	3.1%	3.4%	2.1%	10.0%	8.1%	17.3%	14.9%	18.5%	21.2%	29.4%	25.8%	26.5%
4 図書館	3.8%	8.9%	5.8%	12.3%	17.9%	11.1%	12.7%	7.4%	8.7%	8.2%	5.2%	6.2%
5 メディアセンター	0.8%	1.3%	1.7%	1.7%	1.4%	2.2%	1.4%	1.5%	2.6%	0.3%	2.1%	1.5%
6 教室	3.8%	3.8%	4.8%	4.6%	2.4%	3.1%	2.3%	3.0%	3.8%	2.8%	3.0%	6.2%
7 売店	24.6%	51.7%	37.0%	40.3%	33.8%	35.0%	31.7%	35.4%	16.3%	15.5%	20.6%	15.3%
8 その他	8.5%	5.1%	6.5%	3.4%	4.4%	4.9%	4.5%	7.0%	6.1%	4.7%	4.7%	6.5%

設問28. 学内の施設で改善して欲しいものがありますか？

	2013全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	日本人学生	留学生
1 ラウンジ	7.3%	5.8%	9.9%	7.3%	5.6%	11.1%	6.6%	6.9%	6.1%	9.0%	5.3%	13.8%	8.1%	5.2%
2 食堂	30.5%	26.6%	36.6%	26.6%	16.7%	44.4%	36.3%	32.8%	42.4%	29.9%	36.8%	20.7%	22.2%	51.9%
3 トイレ	26.5%	32.4%	16.8%	33.9%	44.4%	13.9%	20.9%	24.1%	15.2%	23.9%	26.3%	20.7%	33.3%	9.1%
4 図書館	6.2%	7.5%	4.0%	4.6%	5.6%	2.8%	5.5%	6.9%	3.0%	9.0%	10.5%	6.9%	6.1%	6.5%
5 メディアセンター	1.5%	1.2%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	3.4%	3.0%	1.5%	0.0%	3.4%	1.5%	1.3%
6 教室	6.2%	2.9%	11.9%	6.4%	2.8%	13.9%	5.5%	3.4%	9.1%	7.5%	2.6%	13.8%	6.6%	5.2%
7 売店	15.3%	17.9%	10.9%	15.6%	20.8%	5.6%	15.4%	15.5%	15.2%	13.4%	13.2%	13.8%	16.7%	11.7%
8 その他	6.5%	5.8%	7.9%	5.5%	4.2%	8.3%	6.6%	6.9%	6.1%	6.0%	5.3%	6.9%	5.6%	9.1%
回答数	275	173	101	109	72	36	91	58	33	67	38	29	198	77

1) 結果集計・分析

全体的に見た場合：2013年度は「食堂」が30.5%で一番多く、次に「トイレ」が26.5%、「売店」が15.3%、「ラウンジ」が7.3%、「その他」が6.5%、「教室」と「図書館」がともに6.2%、「メディアセンター」が1.5%となっている。

経年変化をみると、2007年度から今年度まで「食堂」、「トイレ」、「売店」が改善を希望する施設の上位3つになっている。特に、「食堂」と「トイレ」は年々回答が増加傾向にある。一方で、「売店」の回答は2003年度をピークに減少傾向にある。これは、「売店」への不満が解消されたというよりも、「食堂」と「トイレ」に対する不満が高まった結果、「売店」に対する不満が相対的に低くなったためではないだろうか。本設問が複数回答可能な形式であれば、「食堂」、「トイレ」、「売店」の3つともが増加傾向を示す可能性はあるだろう。

日本人学生と留学生で見た場合：これらの3施設に関する改善要望に関して、日本人学生と留学生間で比較を行って見よう。日本人学生の改善要望では「トイレ」が33.3%と最も多く、続いて「食堂」が22.2%、「売店」が16.7%、「ラウンジ」が8.1%、「教室」が6.6%、「その他」が5.6%、「メディアセンター」が1.5%である。これに対して留学生の改善要望では、「食堂」が51.9%と最も多く、「売店」が11.7%、「トイレ」と「その他」が9.1%、「図書館」が6.5%、「教室」と「ラウンジ」が5.2%、「メディアセンター」が1.3%となっている。

日本人学生と留学生の間に見られる大きな違いは、日本人学生は「トイレ」の改善を望む回答が33.3%と最も多いが、留学生は「食堂」の改善を望む回答が51.9%と最も多いことである。日本人学生の満足度を高めるためには「トイレ」の改善が必要なのは明らかである。また、多数の留学生が在籍する本学の特徴を鑑みると、半数以上の留学生が食堂の改善を要望していることも無視できないだろう。

学内施設改善に対する具体的要望：上述した「食堂」、「トイレ」、「売店」等に対する要望に応えるには、学生の不満を的確に把握しなければならない。以下は、アンケートの自由

記述欄の情報を整理したものである。「食堂」への具体的な要望を見ると以下の6点に集約される。

- ① 量を増やす
- ② 低価格にしてほしい
- ③ 食事の質の向上（味と栄養面）
- ④ メニューの数の増加
- ⑤ 売り切れをなくしてほしい
- ⑥ 食堂の広くしてほしい

特に、①、②、③、④に関する記載が多く、具体的には「トンカツとハムカツが同じ気がする」とか「野菜が、腐ったような」といった記述がみられたが、このような味に関する不満が、食堂に対する不満に直結しているように思われる。逆に言えば、味が最低限保障されていれば、食堂に対する不満はさほど出てこないのかもしれない。いずれにしても、①、②、③、④に関してさらに情報を収集する必要がある。

「トイレ」に対する要望としては、以下の4点に集約される。

- ① 「トイレトペーパーがちぎれやすい。」
- ② 「しっかりしたトイレトペーパーを置いてほしい。すぐに破れるのでたくさん使わなければならないので。」
- ③ 「トイレが汚い。」
- ④ 「音姫をつけてほしい。」

③や④のような要望は以前もあったが、①や②のような要望は、特に、最近目立ってきているようである。トイレトペーパーの無駄遣いを減らす、トイレの詰まりを予防する、という点からもトイレトペーパーを変更するなどの改善が必要である。

「売店」に対する要望としては、以下の4点に集約される。

- ① 低価格にしてほしい
- ② 営業時間の延長
- ③ 品数の増加
- ④ 売店を広くしてほしい

このような要望は、これまで何度となく出されてきたが、抜本的な対策がとられることなく、今日に至っている。近くにコンビニエンスストア等が存在しない本学の立地を鑑みると売店のサービス向上は学生の学習をサポートする意味でも重要であろう。

「食堂」、「トイレ」、「売店」以外の施設に対する要望にも応えていく必要があるが、ここでは、特に、「ライブラリー」、「喫煙所」、「体育館」に対する要望を取り上げる。「ライブラリー」に対する要望としては、騒いでいる学生への注意、図書館の機械音の軽減、日本語テキストの増加を期待する声が上がっている。良質な学習環境の確保という点において、騒ぐ学生への注意、機械音の軽減や速やかに行われる必要があるだろう。

「喫煙所」に対する要望としては、「喫煙所が少ない」、「207 教室の横の喫煙所を撤去してほしい。臭いや煙が充満している」という意見があげられた。臭いや煙の充満は学生の学習を妨げる可能性もある。詳細に喫煙所周辺の環境を調査し、必要であれば喫煙所の移動等を検討すべきである。

「体育館」に関しては、「体育館のワックスがけをしてほしい」「体育館の2階をあけてほしい」といった要望や、また、学内ロッカーやシャワー室の設置や建物の外のベンチの増設を望む意見もあげられている。

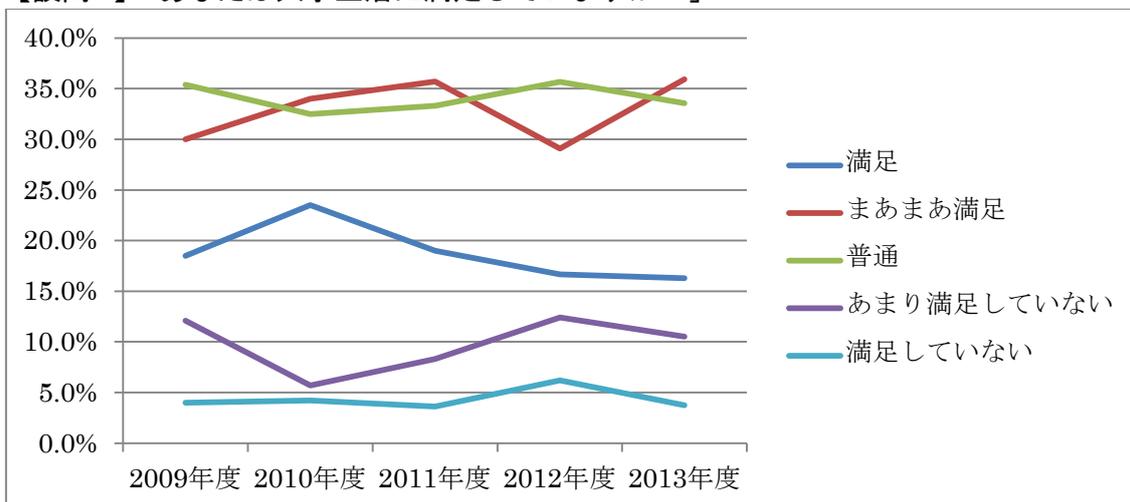
2) 今後の課題（対策案）

予算等の問題があるので、「食堂」、「トイレ」、「売店」等の施設に対する要望に100% 応えることは出来ないが、本学に対する学生の満足度を上げるためには、先ず、特に、「食堂」や「トイレ」の改善に力を入れなければならない。「食堂」に関しては、1) 業者の見直し、2) 食堂サービスのチェック体制の強化（学生・教職員による定期的モニターを行い、基準値を下回ると改善勧告を出す、等）、3) 大学の食堂に対する補助（採算面で食堂の運営が困難になり、サービス低下が避けられない場合）、を早急に行う必要がある。

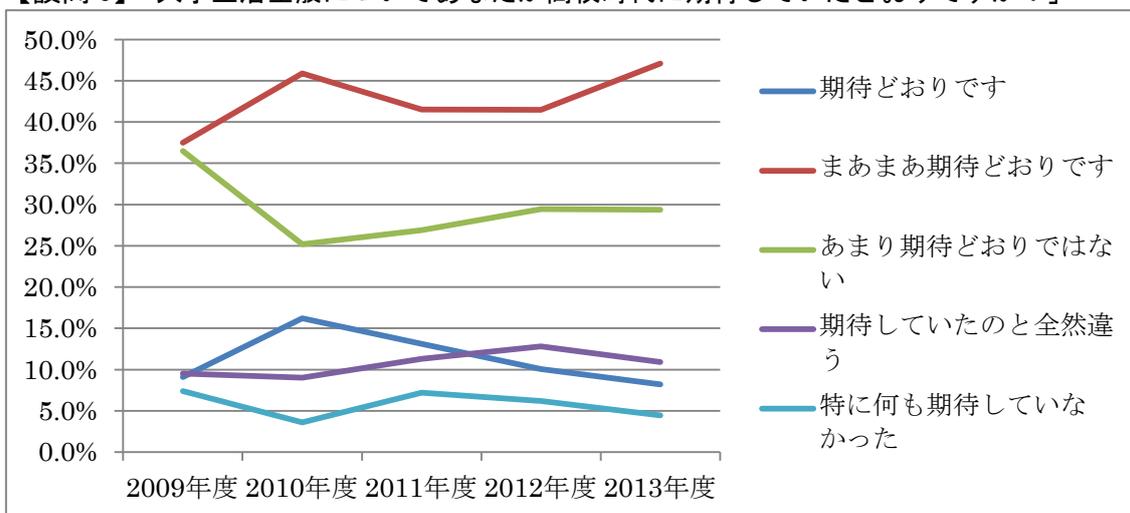
また、「トイレ」に関しては、1) トイレトペーパーの質の向上、2) 花、消臭剤（強力なもの）、音姫を置き、トイレの環境を向上させる、などを直ぐに行う必要がある。中・長期的には、特に、女子トイレのドア（カーテンでは不十分）の改善を行う必要もある。トイレはオープンキャンパスや講演会・学会開催、様々な研修等の開催で多くの外部の訪問者も利用する施設である。本学のイメージ向上のためにもトイレの改善は至急に行う必要があるだろう。

E) その他の調査結果〔5年間の経年変化〕

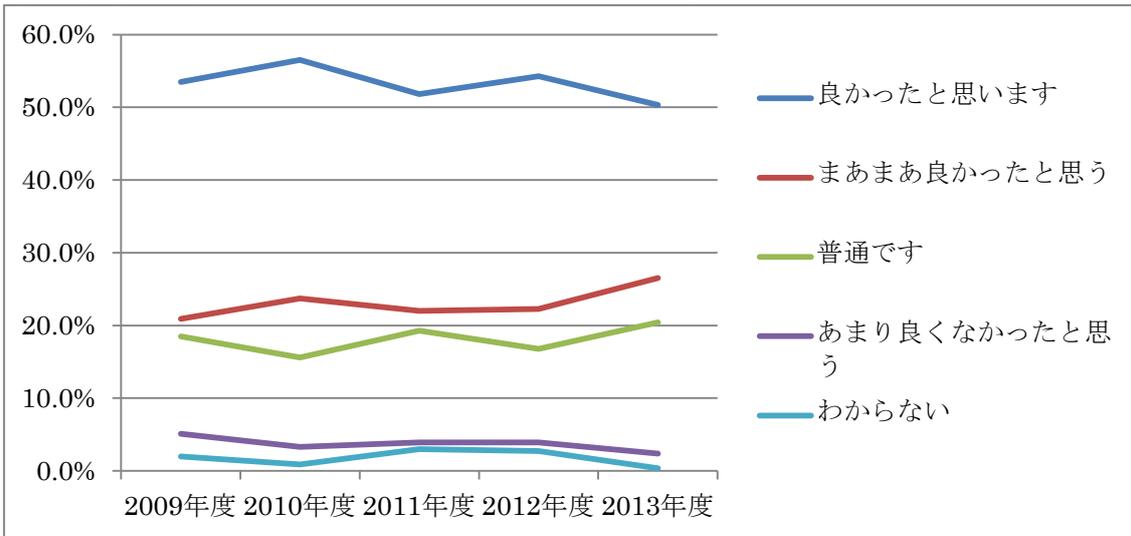
【設問4】「あなたは大学生生活に満足していますか？」



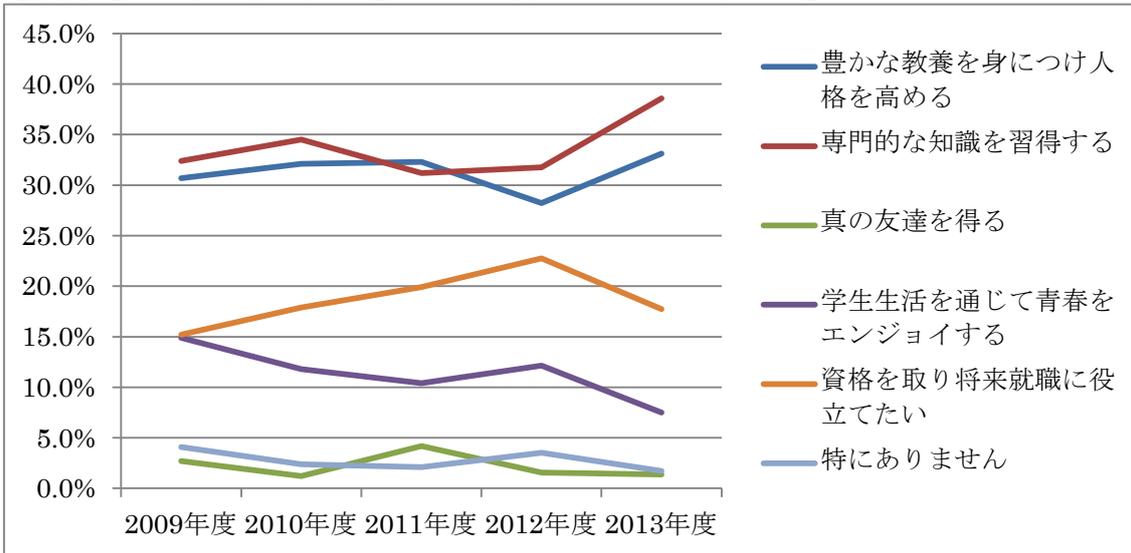
【設問5】「大学生生活全般についてあなたが高校時代に期待していたとおりですか？」



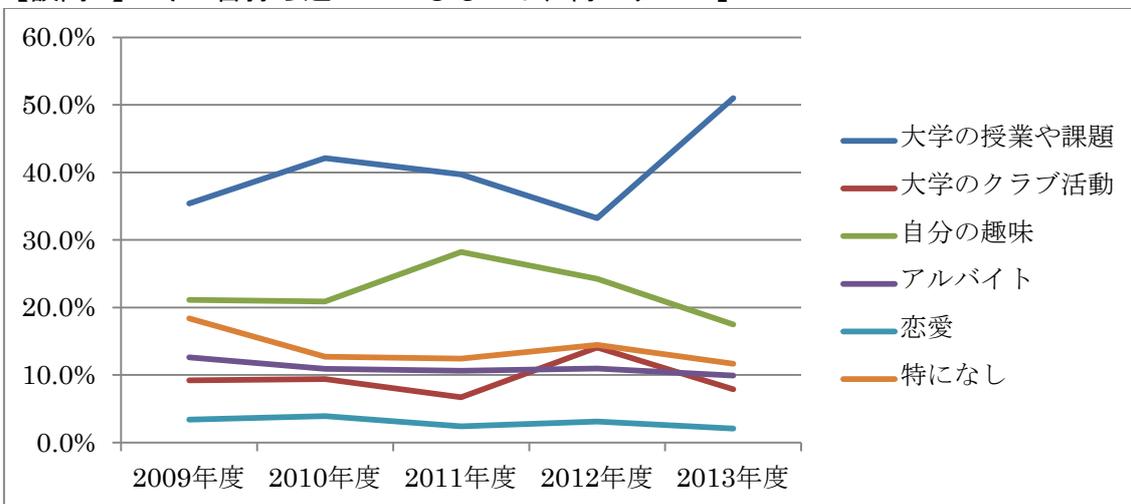
【設問 6】「大学生になって良かったと思いますか？」



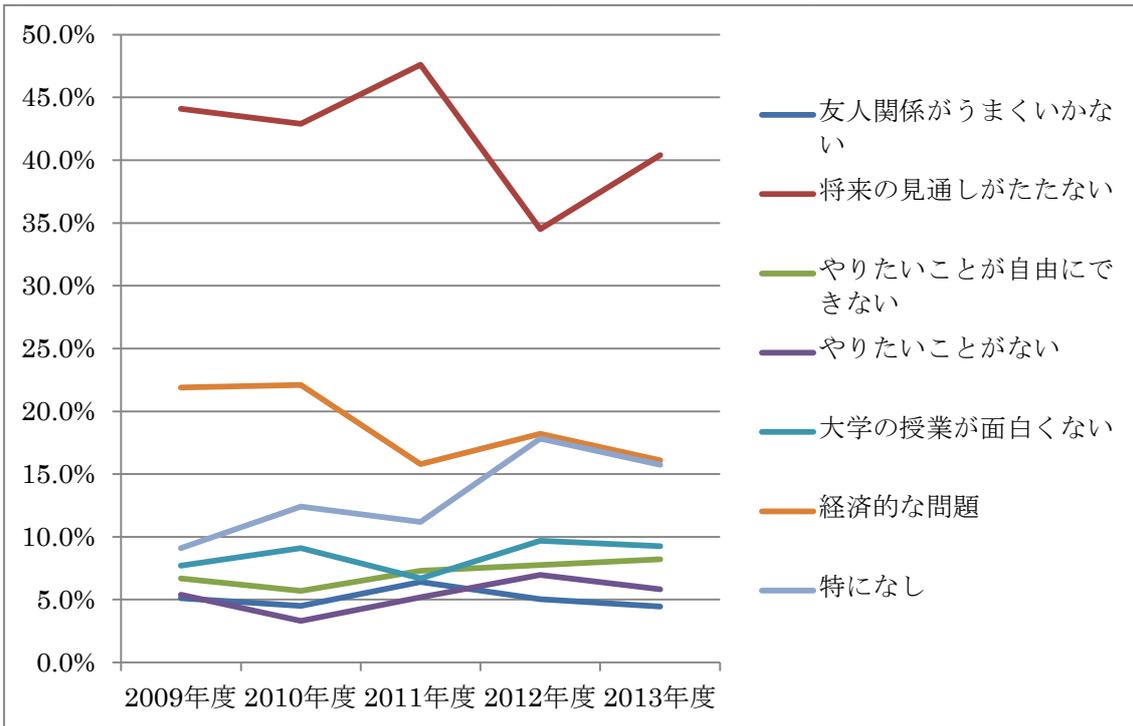
【設問 7】「大学生生活の目的を主として何においでいますか？」



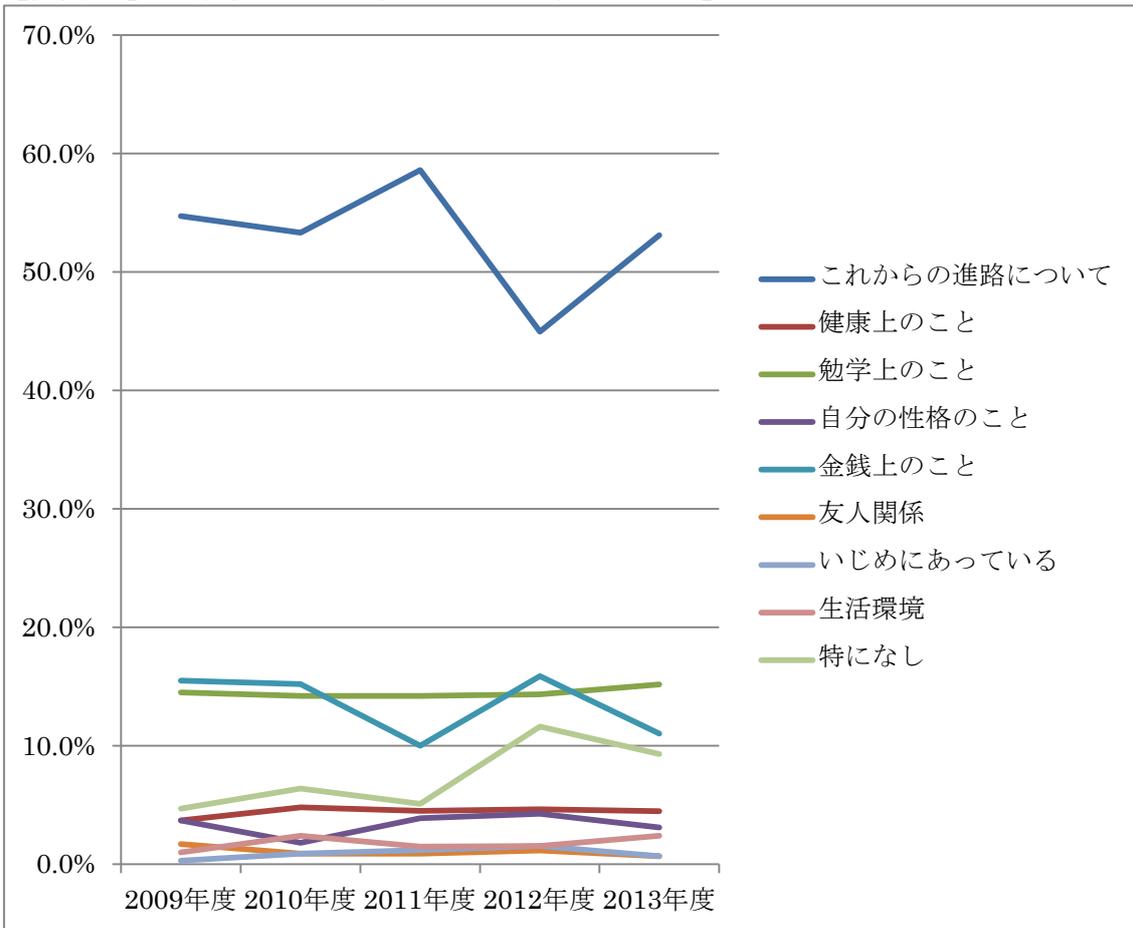
【設問 8】「今一番打ち込んでいるものは、何ですか？」



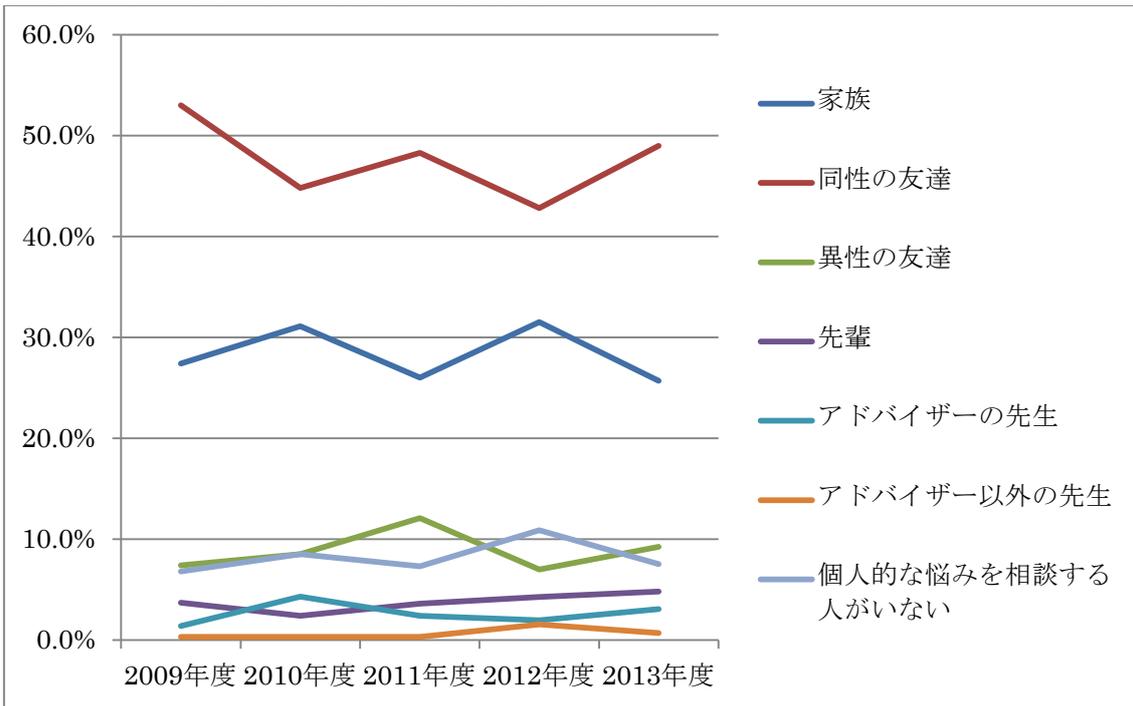
【設問 9】「学生生活の中で一番困っていることは何ですか？」



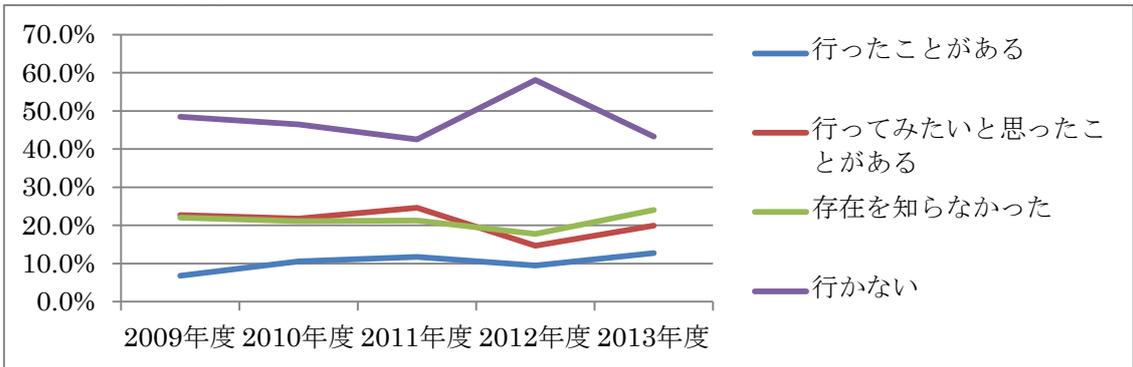
【設問 10】「現在抱えている悩みや不安は何ですか？」



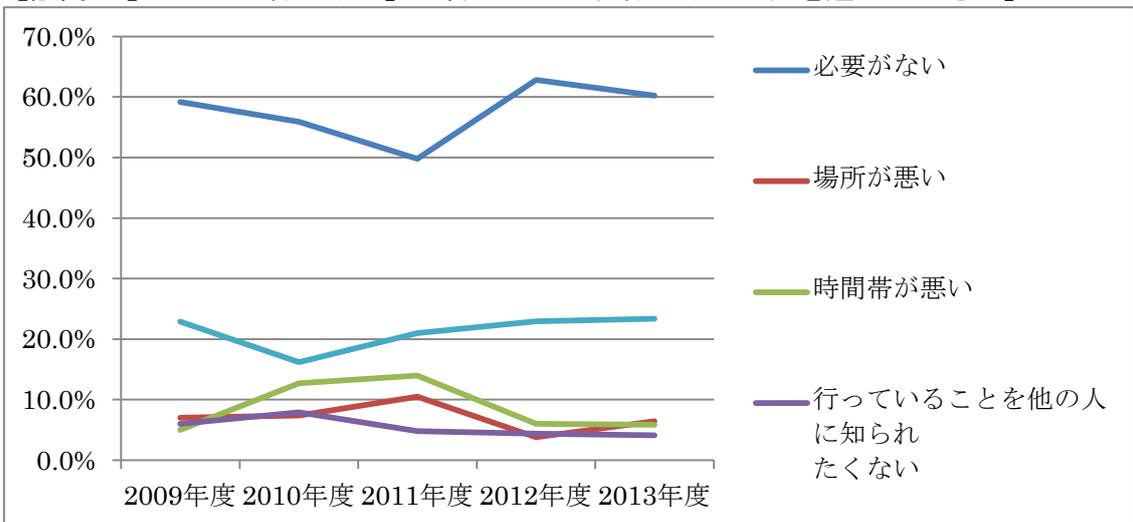
【設問 11】「悩みがあったら誰に相談しますか？」



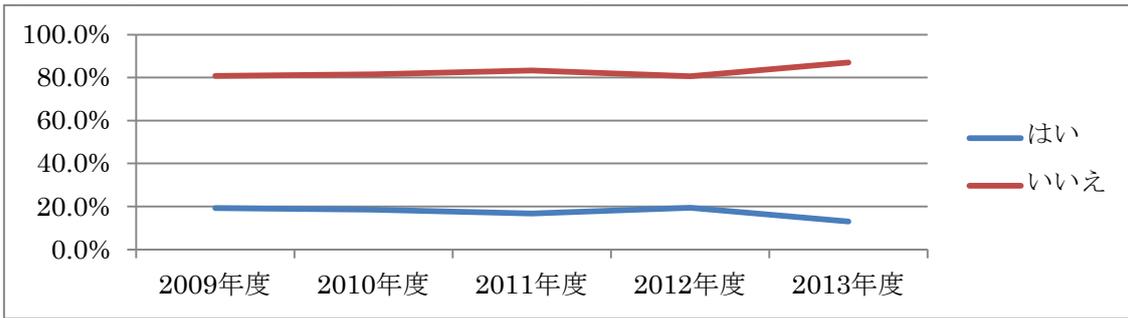
【設問 12】「学内のカウンセリングルームについて」



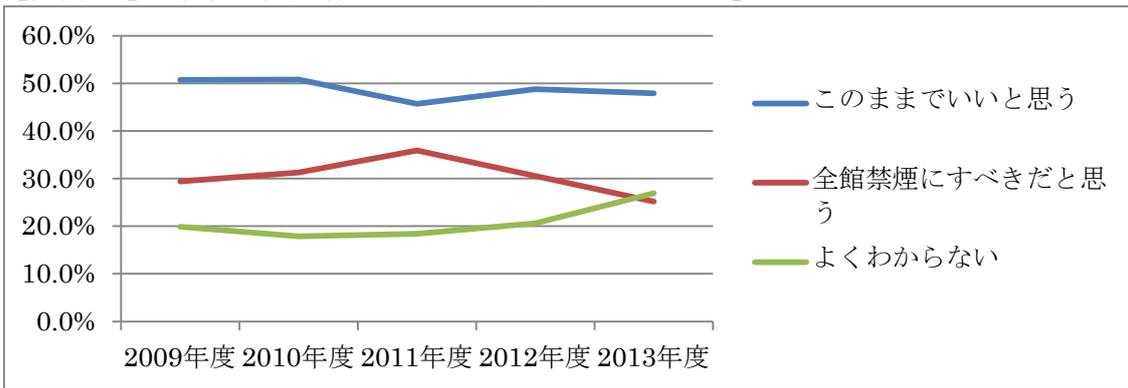
【設問 13】「12で「行かない」と答えた人は、行かない理由を選んで下さい」



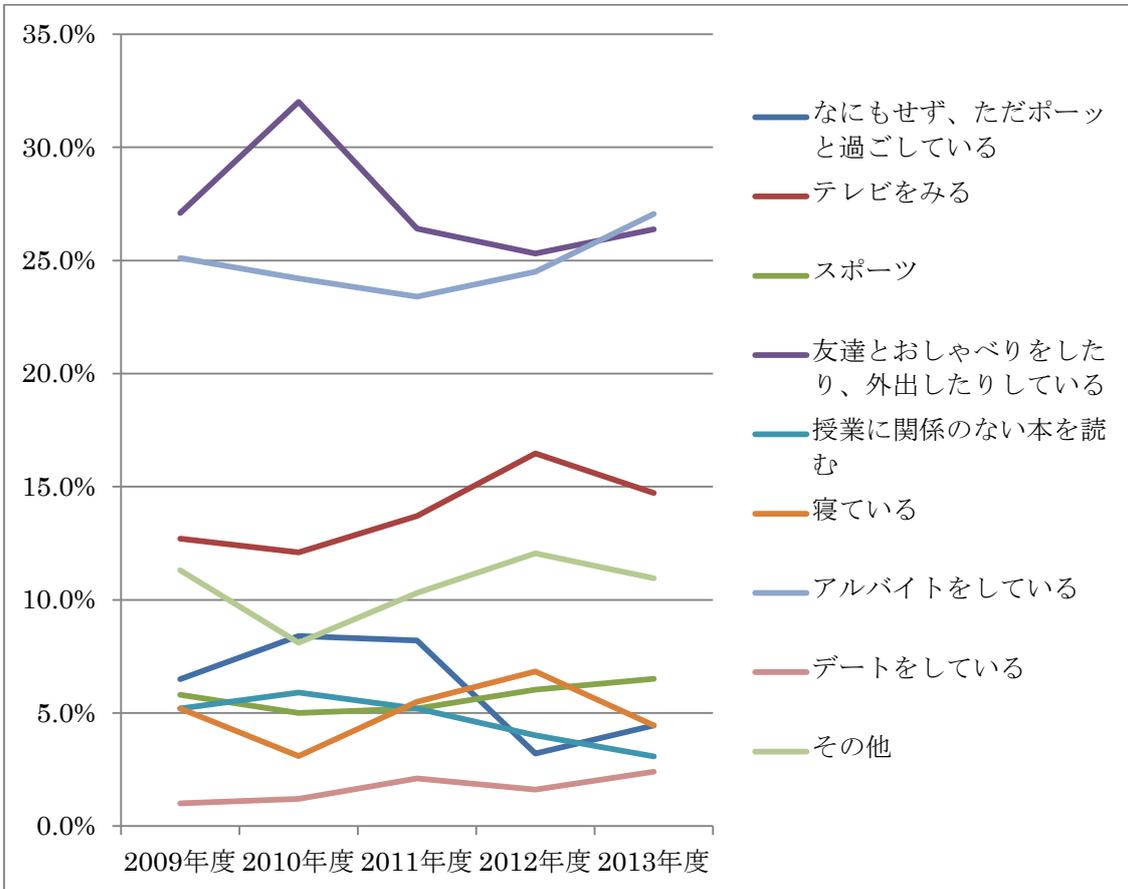
【設問 17】「あなたはたばこを吸いますか？」



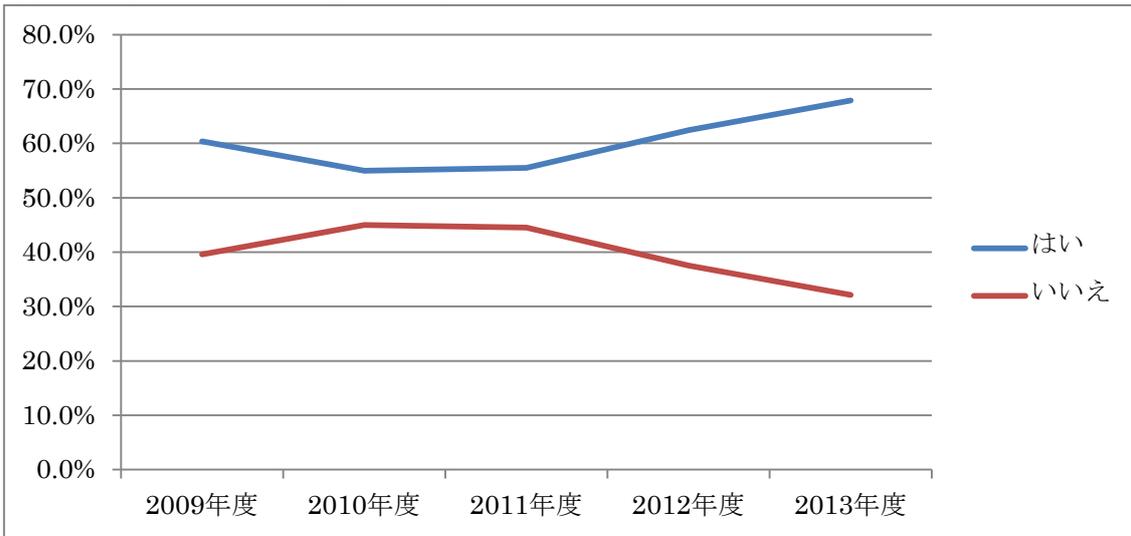
【設問 18】「本学の喫煙場所についてどう思いますか？」



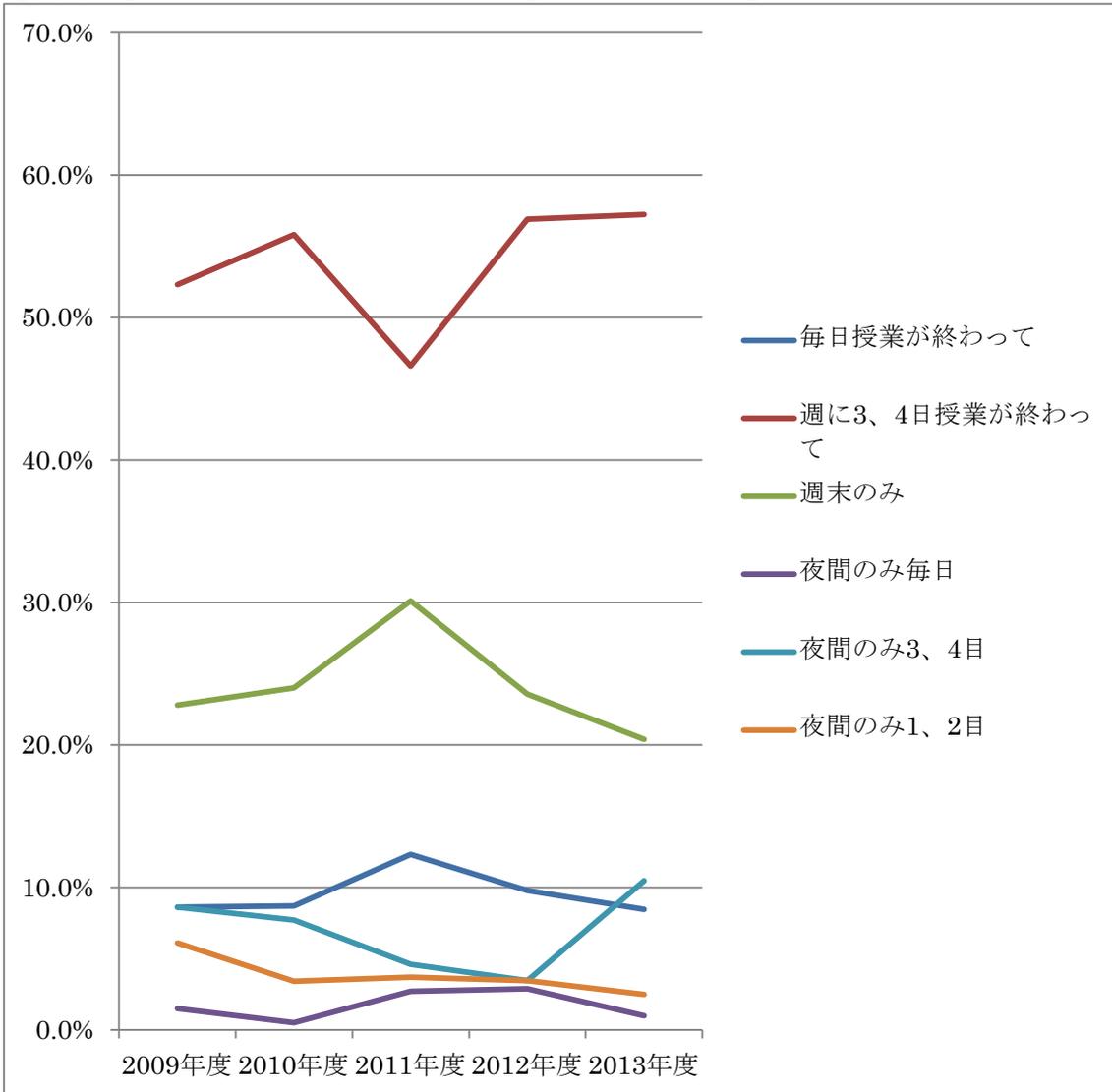
【設問 22】勉強をしていない時は、自由時間をどのように過ごしていますか？



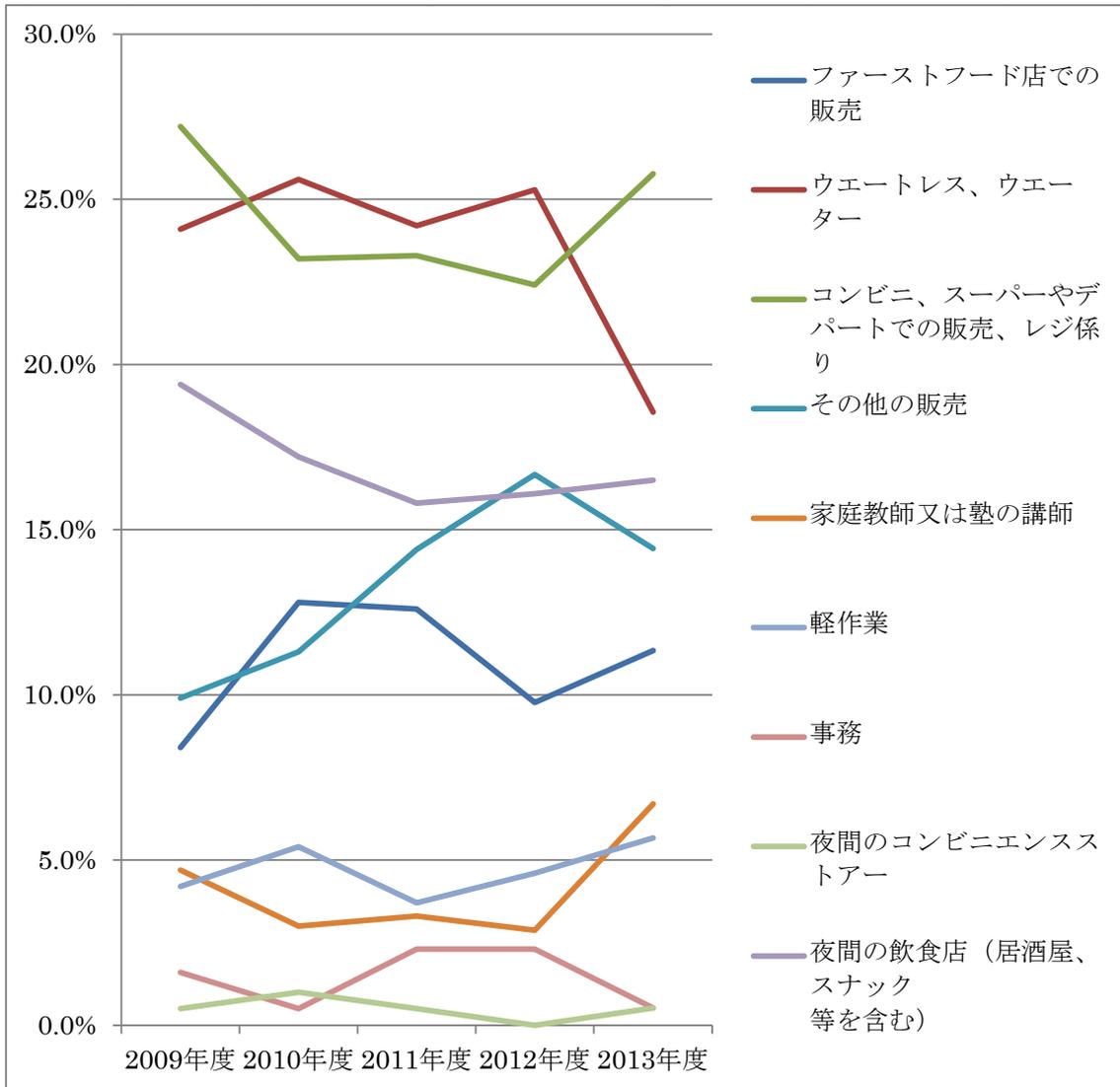
【設問 23】「アルバイトをしていますか？」



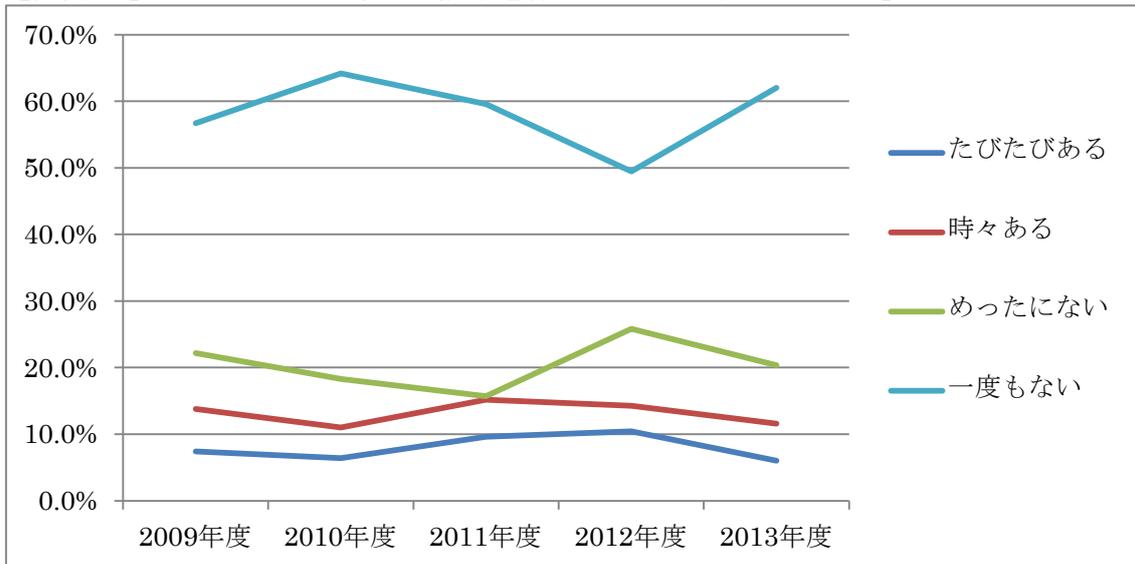
【設問 24】「週にどのくらいアルバイトをしていますか？」



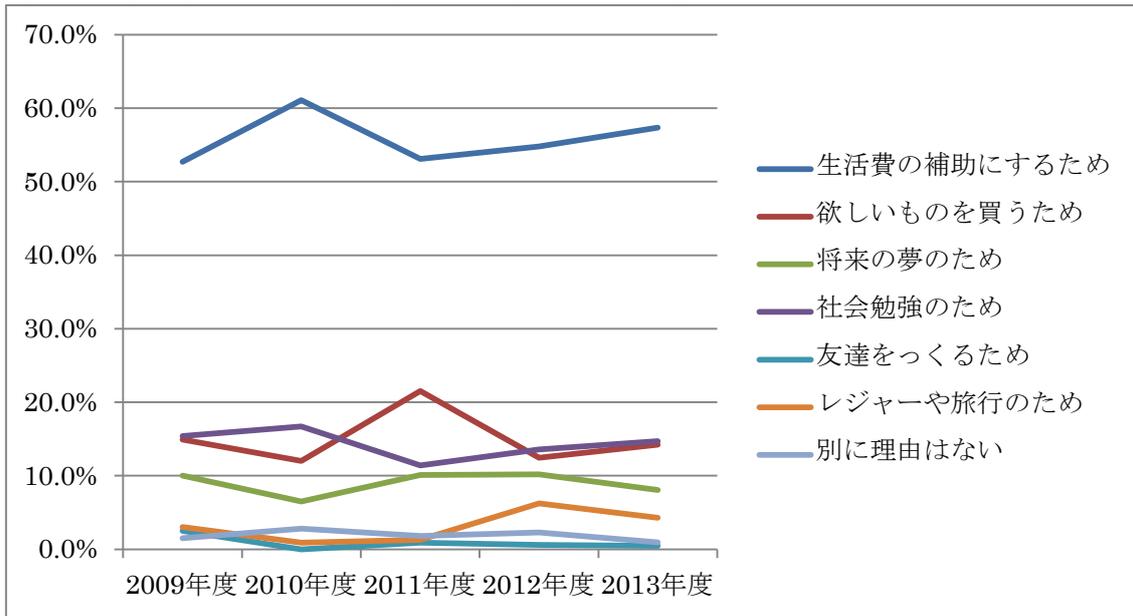
【設問 25】「現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？」



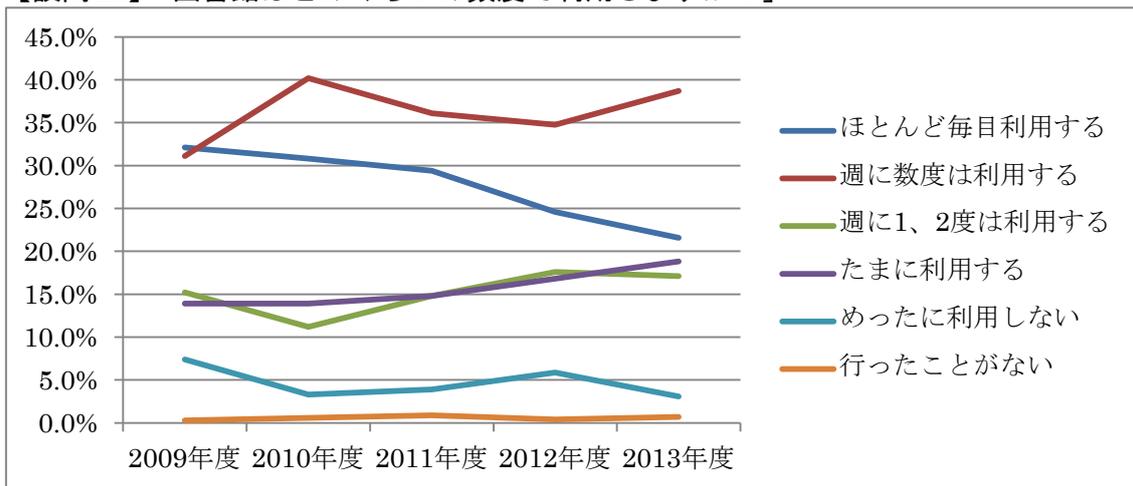
【設問 26】「アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？」



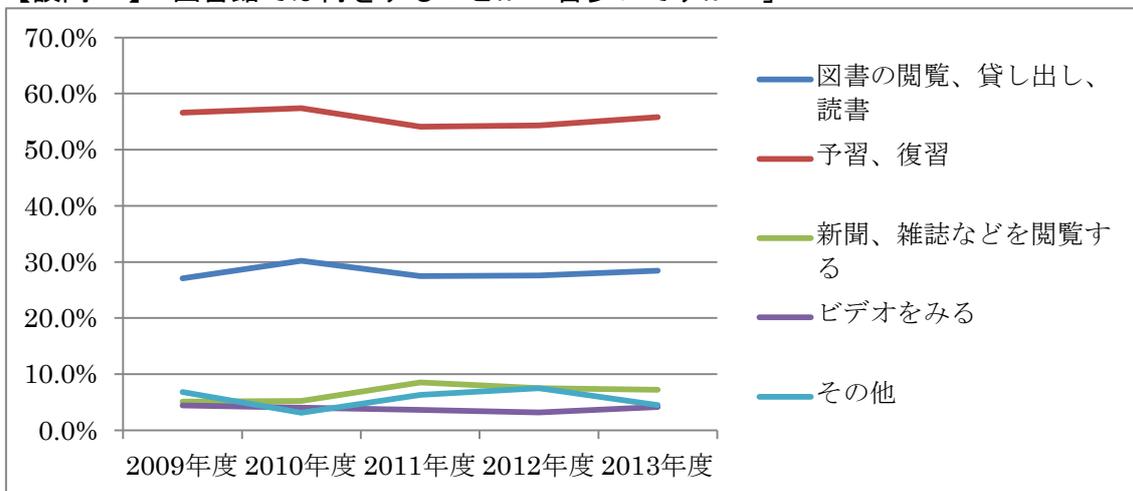
【設問 27】「なぜアルバイトをしているのですか？」



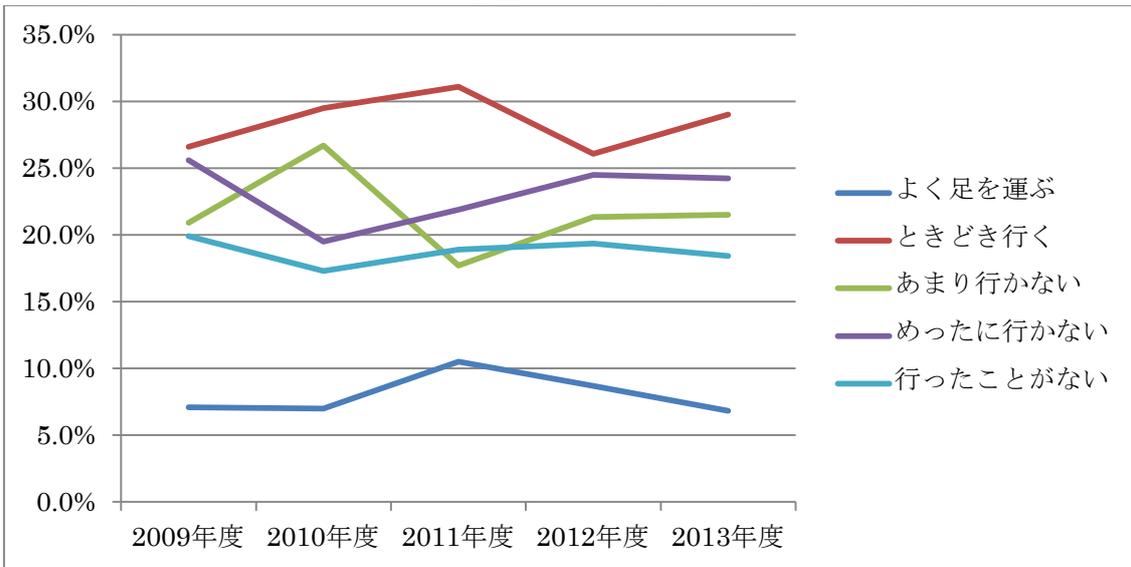
【設問 29】「図書館はどのくらいの頻度で利用しますか？」



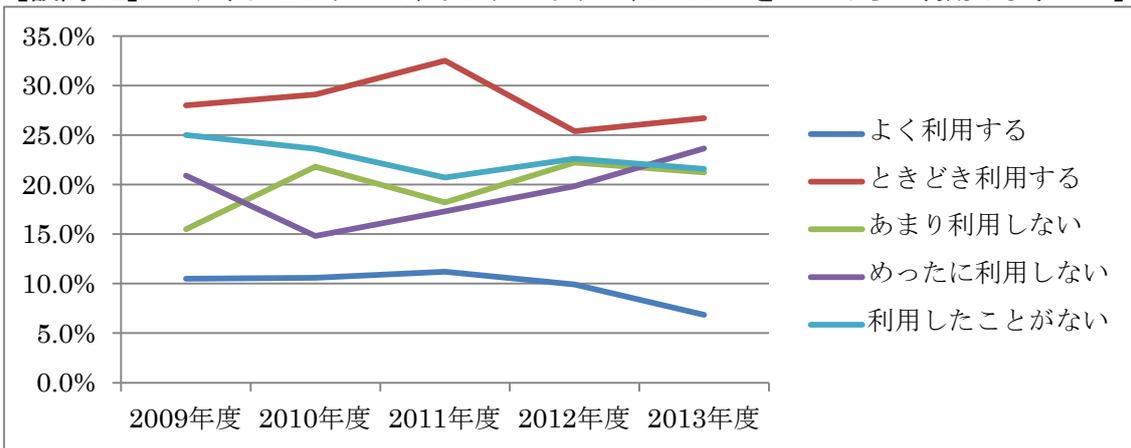
【設問 30】「図書館では何をすることが一番多いですか？」



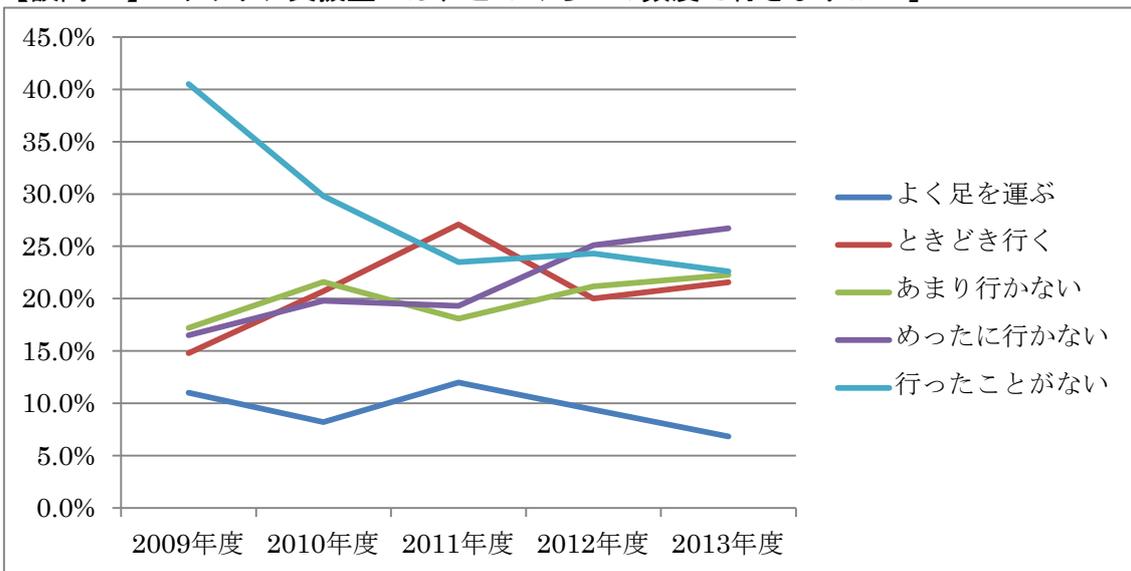
【設問 31】「メディアセンターの自習室はどのくらい利用しますか？」



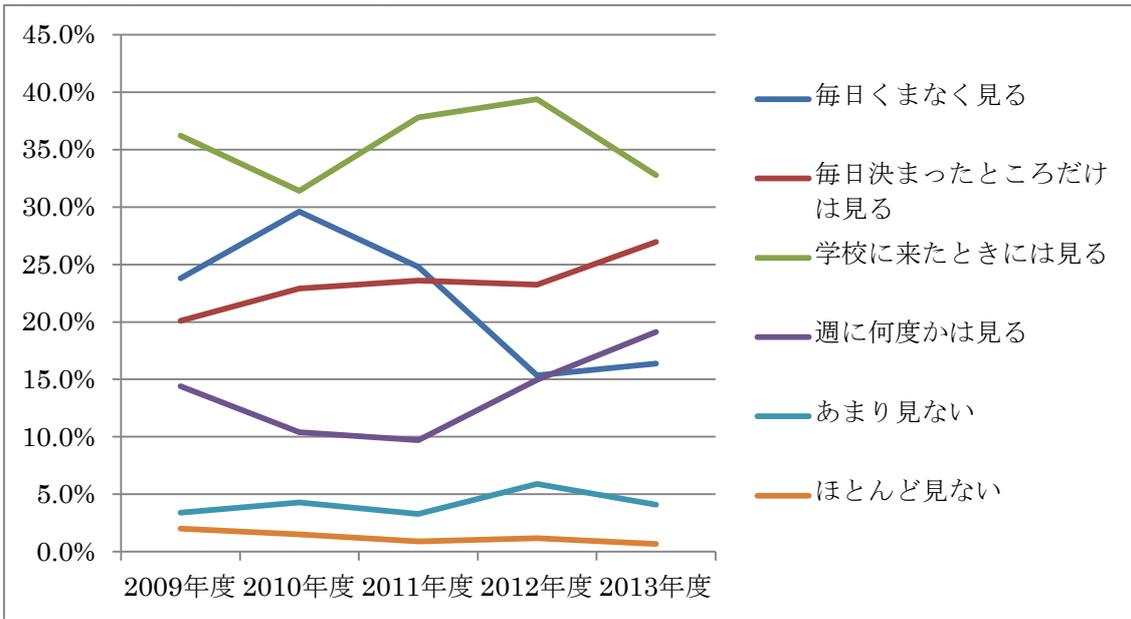
【設問 32】「メディアセンターで、インターネット、e-mail をどのくらい利用しますか？」



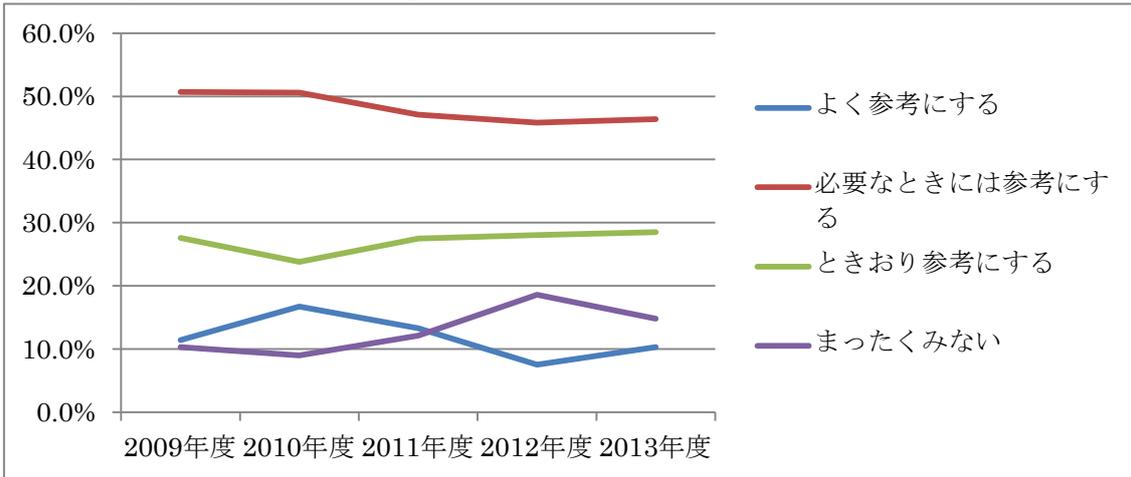
【設問 33】「キャリア支援室へは、どのくらいの頻度で行きますか？」



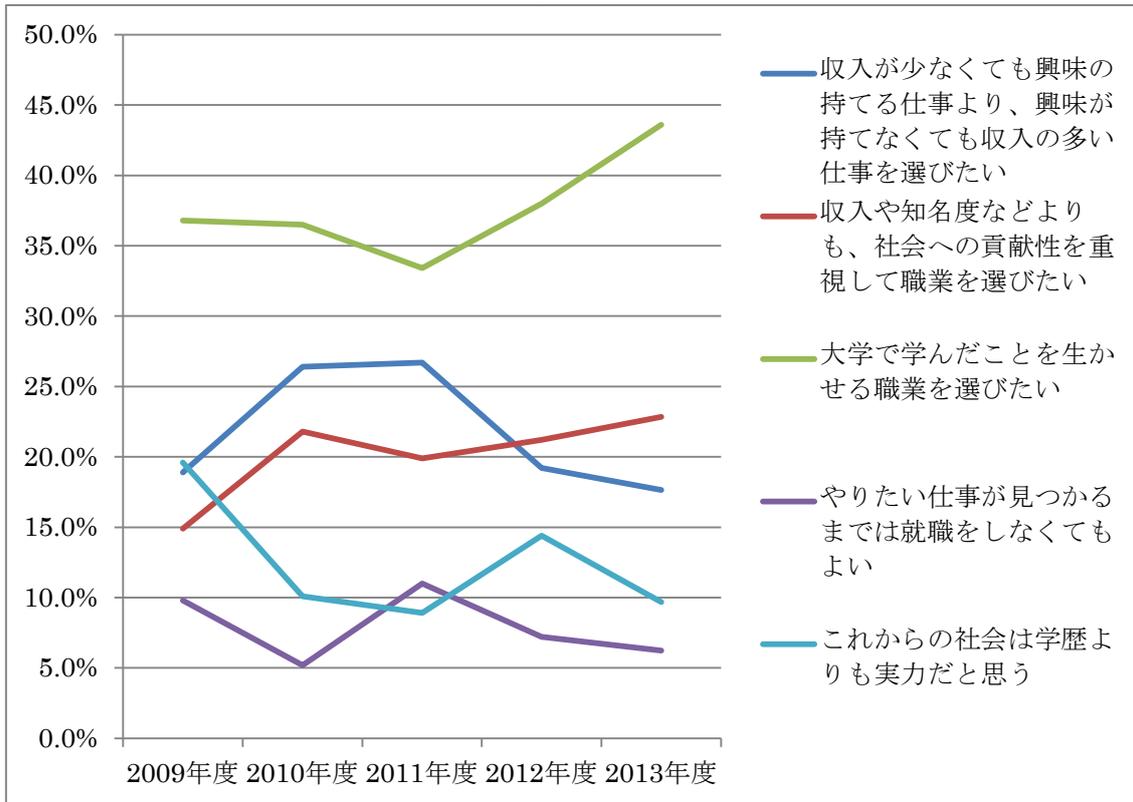
【設問 34】「掲示板について」



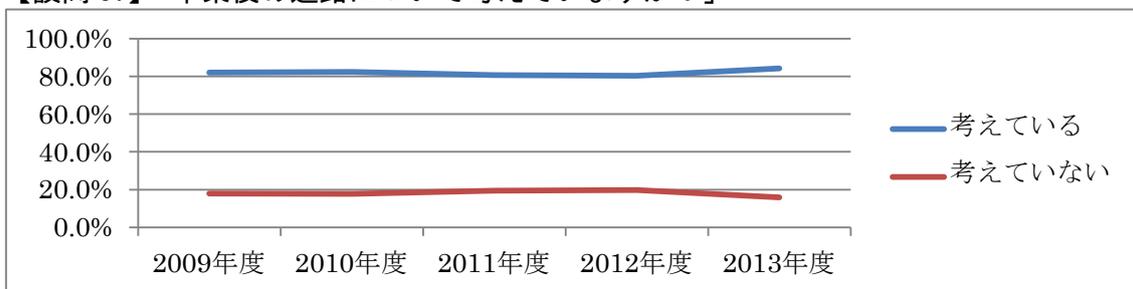
【設問 35】「学生要覧について」



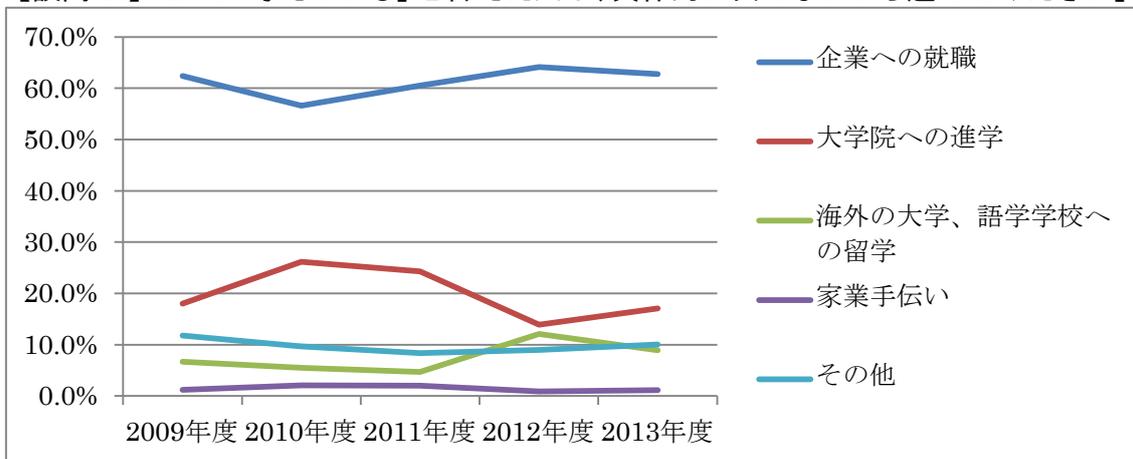
【設問 36】「あなたの職業観にもっともよくあてはまると思われる項目を、以下の選択肢の中から一つ選んで回答してください」



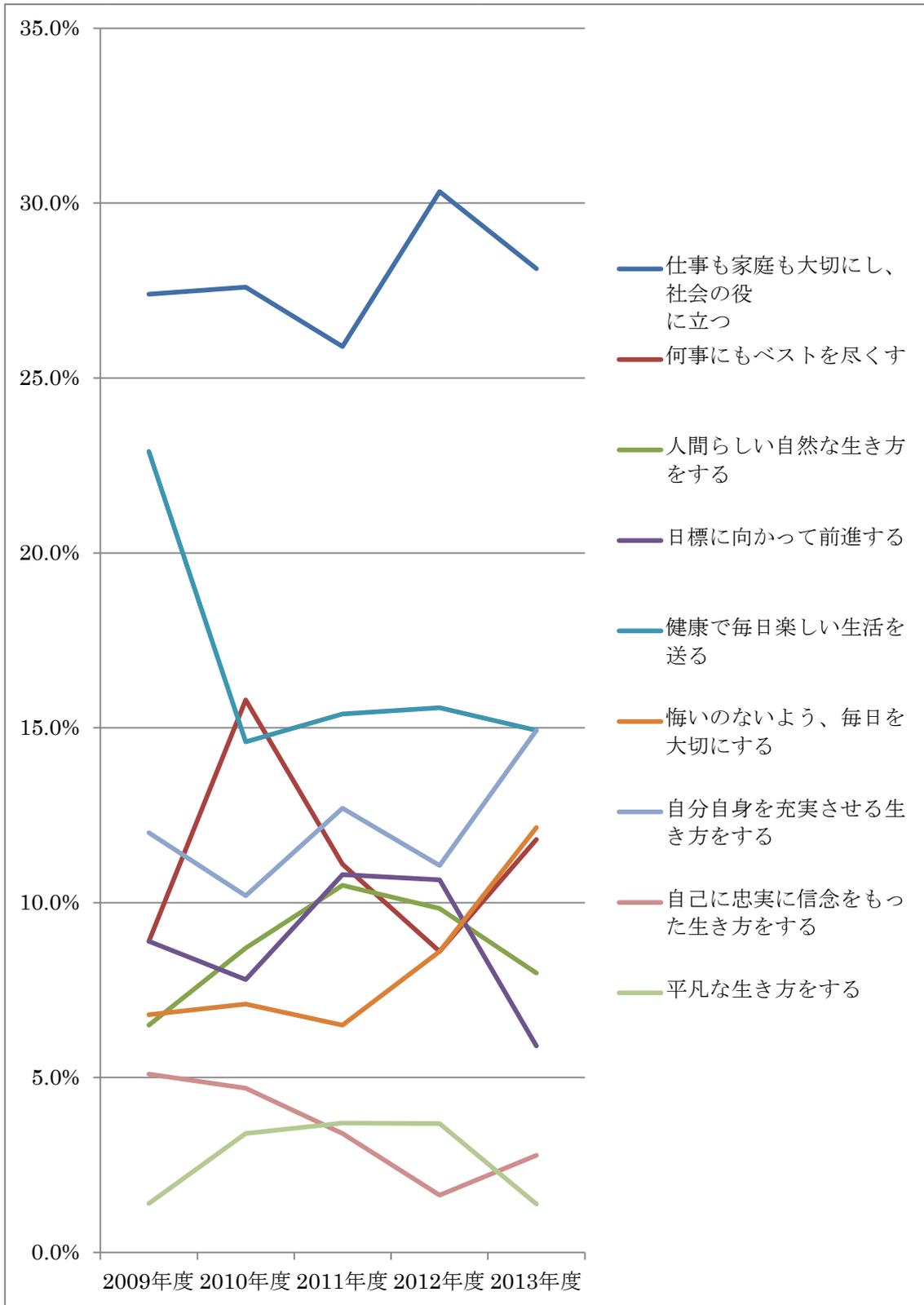
【設問 37】「卒業後の進路について考えていますか？」



【設問 38】「37で「考えている」と答えた人は、具体的に次のなかから選んでください」



【設問 39】「理想的な生き方はどれですか？」



Ⅱ 学習について

A. 学習一般 (40～43)

【設問 40】「自分は学ぼうという意欲や気力がある」

40 自分は学ぼうという意欲や気力がある。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	64.9	68.9
どちらともいえない	29.3	27.9
当てはまらない	5.9	3.2
計	100	100

昨年度との比較においては、「当てはまる」が増加し（4ポイント）、「当てはまらない」が減少する（2.7ポイント）傾向は、一昨年からみられており、積極的に学習に取り組もうとする意欲が若干でも増えていることは歓迎すべきことである。昨年の報告にもあったように、日本人学生と留学生の「当てはまる」を比較すると、前者が71.1%、後者が63.2%と依然として開きがみられるが、それぞれの数値は両者とも向上している。問題は、「どちらともいえない」が数値は下がったとはいえ、3割弱の学生がぼんやりとした意識で学習していることであろう。（各表の数値は%）

設問 41 「自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができる」

41 自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができる。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	37.8	33.9
どちらともいえない	47.0	51.6
当てはまらない	15.1	14.5
計	100	100

「当てはまる」と答えたのは33.9%で、昨年より約4ポイント下がっている。昨年と同様に、留学生だけをみれば45.6%と2ポイント上がっている一方で、日本人学生だけをみた数値は29.4%と約7ポイントも下がっており、これが全体の数値を押し下げている要因である。「どちらともいえない」が、留学生、日本人問わず、半数を占めていることから、この設問については、自分に自信を持ってないのかもしれない。この点をターゲットにした学修内容が求められる。

設問 42 「不明なこと、理解できないことを納得できるまで追究する」

42 不明なこと、理解できないことを納得できるまで追究する。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	50.0	46.8
どちらともいえない	42.9	47.5
当てはまらない	7.1	5.7
計	100	100

「当てはまる」の回答が2011年度のポイントより低い数値へと下がった。「当てはまらない」との答えが2011年度より確実に減少してきているが、前問と同様、これも「どちらともいえない」が半数に近い数値を示していることが気になる。また、留学生と日本人学生との違いがハッキリと出ている設問で、「当てはまる」と答えた留学生は62%

に対し日本人学生は 40.9%で、「当てはまらない」と答えた留学生は 1.3%とかなり低いのにに対して日本人学生は 7.4%であった。

設問 43 「他人と協力しながら学習や作業を進めることができる」

43 他人と協力しながら学習や作業を進めることができる。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	62.2	66.1
どちらともいえない	30.3	27.6
当てはまらない	7.6	6.4
計	100	100

「当てはまる」のポイントが上昇し、他の回答のポイントがいずれも下がる傾向が今年度もみられる。昨年度、「当てはまる」の回答に対し、留学生と日本人学生との数値の開き（前者が低く、後者が高い）が指摘されていたが、今年度は前者が 62.0%、後者が 67.6%と、特に留学生の数値が昨年度の 48.1%から 20 ポイント近く上がっている。この要因をどのように考えたらよいのか、今ひとつ判然としないところであるが、授業内で取り組まれているグループワークの成果であろうか。

B. 自己と他者 (44~45)

【設問 44】「奉仕精神を持って、人間や社会に働きかける」

44 奉仕精神を持って、人間や社会に働きかける。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	45.4	48.8
どちらともいえない	43.4	44.5
当てはまらない	11.2	6.8
計	100	100

いずれにおいても若干の改善でしかなく、「当てはまる」で全体的に上がっていると思われる数値も、留学生のみの数値が昨年度の 40.7%から 62.8%に急上昇したことによるものである。「当てはまる」と回答した日本人学生は 43.3%と、昨年度より 3 ポイント強下がっている。昨年度の指摘を繰り返すことになるが、本学の建学の精神、また教育理念からみても、この設問に関する積極的な回答の向上をはかるような意識改革が急務であろう。

【設問 45】「自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続ける」

45 自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続ける。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	49.0	53.4
どちらともいえない	42.2	43.4
当てはまらない	8.8	3.2
計	100	100

全体では、今年度は「当てはまる」が半数をこえたが、やはりここでも留学生の数値が高い (65.4%) 一方、日本人学生の数値が低い (48.8%)。日本人学生には、自己と向き合う機会を設定することが必要なのだろうか。

C. 学習一般 (46~52)

【設問 46】「幅広い知識を身につけようとしている」

46 幅広い知識を身につけようとしている。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	62.5	62.9
どちらともいえない	32.3	30.4
当てはまらない	5.2	6.7
計	100	100

昨年度との比較においてはほぼ横ばいである。「当てはまる」について、日本人学生と留学生を比べる(昨年度・今年度)と、前者は(65.2%・64.2%)、後者は(52.8%・59.5%)であり、留学生の数値が伸びたが、まだ日本人学生の方が高い数値を示している。

【設問 47】「物事を筋道立てて論理的に考察することができる」

47 物事を筋道立てて論理的に考察することができる。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	37.7	35.0
どちらともいえない	46.4	54.4
当てはまらない	15.9	10.6
計	100	100

昨年度と同様、「どちらともいえない」が半数を超える回答となった。この設問は、設問 41 や次の設問 48 などとも関係しているように思われる。昨年度、留学生の「当てはまる」との回答が 49.1% だったのに対し、今年度は 45.6% と下がり、「どちらともいえない」が昨年度の 34.5% から 50.6% と半数を超え、大きく変化した。

【設問 48】「自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる」

48 自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	33.3	36.0
どちらともいえない	47.2	54.4
当てはまらない	19.4	10.6
計	100	100

昨年度までと同様、「当てはまる」が 4 割を超えることはなかった。ただ、留学生だけをみると、49.4% と昨年度より 12 ポイント以上数値が上がっている。これが一時的なものか、何らかの成果であるのかどうかは様子を見るしかないところである。ただ、「どちらともいえない」が全体で半数を超えており、また留学生であれ、日本人学生であれ、いずれも半数を超えている(前者: 50.6%、後: 55.9%)。

設問 49 「書物を読む習慣が身についている」

49 書物を読む習慣が身についている。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	37.1	36.7
どちらともいえない	39.0	37.5
当てはまらない	23.9	25.8

計	100	100
---	-----	-----

49 書物を読む習慣が身についている。(日本人学生・留学生別)		
	日本人学生 (昨年度)	留学生 (昨年度)
当てはまる	27.6 (37.1)	60.0 (37.0)
どちらともいえない	38.9 (36.5)	33.8 (48.1)
当てはまらない	33.5 (36.4)	6.3 (14.8)
計	100	100

留学生と日本人学生との違いが今年度は顕著に出た。全体としては、昨年度とそれほど大きな変化が生じているわけではないが、これを日本人学生と留学生とに分けてみると、日本人学生の「当てはまる」と、留学生のすべての回答において大きな数値の変化がみられる。1年で書物を読む習慣が身についたり、身についた習慣がなくなったりするとは思えないが、前者は良いとしても、日本人学生の「当てはまる」数値の10ポイントダウンは大きな問題である。

【設問50】「すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる。」

50 すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	43.6	45.4
どちらともいえない	48.8	44.7
当てはまらない	7.6	9.9
計	100	100

50 すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる。 (日本人学生・留学生別)		
	日本人学生 (昨年度)	留学生 (昨年度)
当てはまる	38.2 (40.1)	63.8 (56.6)
どちらともいえない	50.5 (50.8)	30.0 (41.5)
当てはまらない	11.3 (9.1)	6.3 (1.9)
計	100	100

留学生と日本人学生との違いが今年度は顕著に出た。全体としては、昨年度とそれほど大きな変化が生じているようには見えないが、これを日本人学生と留学生とに分けてみると、留学生の数値に違いがみられた。

【設問51】「パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない」

51 パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	55.6	54.9
どちらともいえない	32.4	32.4
当てはまらない	12.0	12.7
計	100	100

51 パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない。
--

(日本人学生・留学生別)		
	日本人学生 (昨年度)	留学生 (昨年度)
当てはまる	55.4 (56.4)	53.8 (52.7)
どちらともいえない	28.9 (32.8)	41.3 (30.9)
当てはまらない	15.7 (10.8)	5.0 (16.4)
計	100	100

いずれの回答においてもほぼ昨年度同様であるといえる。留学生と日本人学生別にみると、「当てはまる」はほぼ同じ数値であるが、「どちらともいえない」、「当てはまらない」では学生による違いがみられると同時に、留学生においては年度別でも大きく異なる数値が出ている。

【設問 52】「社会問題に関心がある」

52 社会問題に関心がある。	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	52.0	53.9
どちらともいえない	40.1	40.4
当てはまらない	7.9	5.7
計	100	100

全体としては、2000年代の後半から「当てはまる」の数値が漸減傾向にあるのは変わらず、「どちらともいえない」が微妙に漸増している。自分に関係することには目を向けるが、そうでないことには見向きもしないといった現代学生の様子がうかがえるようにも思える。また、これに関しては日本人学生と留学生に顕著な違いはなかった。

D. 授業選択 (53～59) ここからは、＜あなたが授業科目を選択するとき、重視することについて回答してください。＞として設問されている。

【設問 53】「学問的に興味があるかないか」

53 学問的に興味があるかないか	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
重視する	74.2	77.5
どちらともいえない	21.4	20.1
重視しない	4.4	2.5
計	100	100

昨年度との比較では、「重視する」が若干上昇し、「重視しない」が若干減少している。また、昨年度、日本人学生と留学生とで大きな差がみられた「重視する」の数値については、今年度においてはほぼ同じ（前者 77.6%、後者 77.2%）であり、留学生の数値の上昇が顕著であった。

【設問 54】「課題の量の多少」

54 課題の量の多少	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
重視する	50.4	39.9
どちらともいえない	34.0	44.9
重視しない	15.6	15.2

計	100	100
54 課題の量の多少	(日本人学生・留学生別)	
	日本人学生 (昨年度)	留学生 (昨年度)
重視する	36.8 (48.2)	48.1 (58.5)
どちらともいえない	47.5 (36.0)	38.0 (26.4)
重視しない	15.7 (15.7)	13.9 (15.1)
計	100	100

「重視する」の回答が昨年度より 10 ポイント以上減少した。「重視しない」は変化がなく、「どちらともいえない」は 10 ポイント強上昇した。日本人学生・留学生別でもこの増減変化は変わらない。ただ、日本人学生より留学生の方が授業選択の際に「課題の量の多少」を重視し、日本語による課題の多少は気になるということだろうか。「どちらともいえない」が増えたのは、各授業科目における授業外学習への取り組みが始められた影響があるのかもしれない。

【設問 55】「単位の取りやすさ」

55 単位の取りやすさ。	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
重視する	63.2	53.2
どちらともいえない	24.8	32.4
重視しない	12.0	14.4
計	100	100

「重視する」の回答が昨年度より 10 ポイント減少した。2004 年度以来の低さである。「重視しない」も昨年度から上昇傾向にあり、各授業科目におけるシラバスの確立、学修評価の多様化や明確化によって、安易な授業選択が起こりにくい状況になってきたからであろうか。昨年同様、日本人学生と留学生の回答結果に大きな差異はみられない。

【設問 56】「先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）」

56 先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
重視する	62.4	53.9
どちらともいえない	24.4	34.4
重視しない	13.2	11.7
計	100	100

56 先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）	(日本人学生・留学生別)	
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
重視する	48.8 (58.4)	67.1 (77.4)
どちらともいえない	36.0 (28.4)	30.4 (9.4)
重視しない	15.3 (13.2)	2.5 (13.2)
計	100	100

「重視する」が全体として 10 ポイント弱減少し、「どちらともいえない」が 10 ポイント上昇した。日本人学生・留学生別の数値も全体と同様、大きく変化した。特に、留学生の「どちらともいえない」の回答は昨年度の 3 倍以上の数値になっており、かなり

はかりかねるところである。ただ設問 55 と関連して、各授業科目の評価基準や評価方法がある程度スタンダード化してきたことと、その多様化によって、学生たちの授業選択が左右されてきているといえるのではないか。

【設問 57】「時間割の都合」

57 時間割の都合 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
重視する	78.9	79.1
どちらともいえない	16.2	18.0
重視しない	4.9	2.9
計	100	100

昨年度とほぼ変わらず 80%近い数値となっている。この設問に対する経年変化と、上記設問と併せてみると、学生たちは時間割の都合を第一優先に授業選択を行っているといえる。今年度も、留学生より日本人学生の方が時間割の都合を重視する傾向はみられた。

【設問 58】「将来仕事の役に立つか」

58 将来自分の仕事の役に立つか (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
重視する	58.9	65.5
どちらともいえない	26.8	18.0
重視しない	14.2	8.6
計	100	100

昨今の就職事情が困難な中で、この設問に対して大きな変化がみられるかと思われたが、そうではなく、昨年度までの傾向と大きく変化はみられなかった。設問の回答「重視する」に関しては、留学生の方が日本人学生よりも 10 ポイントほど高い数値（昨年度も同様）であったことから、留学生は将来の仕事を考えて授業選択をしているといえる。

【設問 59】「先生の授業のやり方、教え方」

59 先生の授業のやり方、教え方 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
重視する	68.8	71.8
どちらともいえない	24.3	24.9
重視しない	6.9	3.2
計	100	100

59 先生の授業のやり方、教え方 (日本人学生・留学生別)		
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
当てはまる	70.1 (68.6)	76.3 (69.8)
どちらともいえない	25.9 (24.7)	22.5 (22.6)
当てはまらない	4.1 (6.7)	1.3 (7.5)
計	100	100

昨年度までの経年変化をみると、「重視する」は 60～70%台で推移しており、「どちらともいえない」が 20%前後で増減し、「重視しない」はおおよそ 3～8%を動いている。時間割と同様に、教員の授業運営が、学生の授業選択の高い関心事となっていると

いえる。各授業科目のシラバスでの授業内容の明確化や、評価基準や評価方法がある程度スタンダード化してきたことと、その多様化によって、授業はどのように行われるのかに関心が向いてきているのではないかと推察される。

E. 受講の実態 (60~66) ここからは、＜大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答えてください。＞として設問されている。

【設問 60】「授業には満足していますか」

60 他人と協力しながら学習や作業を進めることができる。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
満足している	33.3	39.4
どちらともいえない	49.8	50.9
満足していない	16.9	9.7
計	100	100

昨年度との比較では、「満足している」が6ポイントほど上昇し、「満足していない」が7ポイント強減少した。この傾向は日本人学生、留学生両方にみられた。昨年度は一昨年度から満足度が減少していたので、今年度に見られた回答の良い傾向をさらに進められるような授業展開に心がけることが肝要であろう。

【設問 61】「授業の内容を理解していますか」

61 授業の内容を理解していますか。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
理解している	55.0	59.4
どちらともいえない	37.3	37.7
理解していない	7.6	2.9
計	100	100

「理解している」が昨年度からさらに4ポイント強上昇し、「理解していない」が5ポイント弱低下した。各授業科目で、内容がわかりやすいように様々な取り組みを行っていることの明るい兆しであるにとらえたい。今年度は、日本人学生と留学生との回答に昨年度ほどの大きな差異はみられなかった。

【設問 62】「授業で不明な点はどのように解決していますか」

62 授業で不明な点はどのように解決していますか。 (昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
教員に直接質問する	36.8	40.6
友人に質問して教えてもらう	41.3	42.0
参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる	19.4	15.6
わからないままにしておく	2.4	1.8
計	100	100

「教員に直接質問する」割合が4ポイント上昇したのに対し、「わからないままにしておく」が微減した。また、情報収集により「自分で調べる」が4ポイントほど低下した。教員に直接質問する学生が増えるのは嬉しい反面、自分で調べない学生が増えるのも懸念材料ではある。

【設問 63】「授業の出席率はどれくらいですか」

63 授業の出席率は。(昨年度との比較)		
	2012年度	2013年度
20%未満	9.0	7.9
20%以上 40%未満	7.8	7.6
40%以上 60%未満	9.8	4.7
60%以上 80%未満	18.8	23.8
80%以上	54.7	56.0
計	100	100

全体的に、昨年度よりさらに改善傾向にあり、出席率 60%未満の学生が徐々に減少する傾向がみられる。ただ、出席率の悪い学生が減っている反面、80%以上の高出席率学生の数値にはそれほど大きな変化がみられない。

【設問64】「あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか。」

64 あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか。(昨年度との比較)		
	2012年度	2013年度
授業の内容が難しすぎるから	8.0	7.4
授業の内容がやさしすぎるから	8.4	7.7
学ぶ意欲がわからないから	13.9	9.2
病気のため	24.8	31.7
アルバイトが忙しいから	3.4	1.5
朝寝坊のため	26.5	29.2
その他	15.1	13.3
計	100	100

64 あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか。(日本人学生・留学生別)		
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
授業の内容が難しすぎるから	6.2 (7.5)	10.4 (9.8)
授業の内容がやさしすぎるから	7.7 (5.3)	7.8 (19.6)
学ぶ意欲がわからないから	8.8 (13.4)	10.4 (13.9)
病気のため	28.4 (24.6)	40.3 (15.7)
アルバイトが忙しいから	1.0 (2.1)	2.6 (7.8)
朝寝坊のため	37.1 (32.1)	9.1 (15.7)
その他	10.8 (15.5)	19.5 (0.0)
計	100	100

授業の難易度や学習意欲が原因となっているケースは減少しているが、「病気」と「朝寝坊」の数値が上昇している。昨年度と同じことになるのだが、「病気」や「朝寝坊」は睡眠不足や生活時間の乱れが主因となっているといえる。これから、さらに授業外の学修時間が強く求められるようになるので、規則正しい生活習慣をつけるためにも、大学生活の中心は授業であり、学習であるという意識をもたせることが必要である。

【設問 65】「自由時間には、1日どれくらい勉強していますか」

65 自由時間には、1日どれくらい勉強していますか。(昨年度との比較)		
	2012年度	2013年度
0時間	13.8	11.2
1時間未満	36.4	35.6

1 時間以上 2 時間未満	36.4	34.9
2 時間以上 3 時間未満	8.9	12.9
3 時間以上	4.5	5.4
計	100	100

65 自由時間には、1 日どれくらい勉強していますか。(昨年度との比較)		
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
0 時間	12.1 (13.3)	8.9 (15.4)
1 時間未満	40.7 (39.5)	22.8 (25.0)
1 時間以上 2 時間未満	33.2 (37.9)	39.2 (30.8)
2 時間以上 3 時間未満	11.1 (6.2)	17.7 (19.2)
3 時間以上	3.0 (3.1)	11.4 (9.6)
計	100	100

全体で見れば、0 時間が減り、2 時間以上 3 時間未満と 3 時間以上が増えている。1 時間未満から 2 時間強程度の学習を行っている学生がほとんどであり、学習にしっかりと時間を取る学生と、ほとんど学習時間を確保していない学生との間で、徐々に学習時間の格差が広がる傾向にあるように思われる。ただ、前問でも触れたように、各科目において授業外学習の指示が出るので、少なくとも 2 時間以上の学習時間が適正な回答とならねばならない。

【設問 66】「自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか」

66 自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか。(昨年度との比較)		
	2012 年度	2013 年度
授業の予習復習だけ	40.2	38.8
資格や将来のための自主的な勉強	28.9	32.6
授業のための自主的な勉強	14.6	11.6
授業のためとそれ以外の自主的な勉強	13.4	14.1
その他	2.8	2.9
計	100	100

66 自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか。(昨年度との比較)		
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
授業の予習復習だけ	42.6 (41.5)	29.1 (35.8)
資格や将来のための自主的な勉強	25.9 (29.0)	49.4 (28.3)
授業のための自主的な勉強	12.2 (13.5)	10.1 (18.9)
授業のためとそれ以外の自主的な勉強	15.2 (14.5)	11.4 (9.4)
その他	4.1 (1.6)	0.0 (9.6)
計	100	100

「授業の予習復習だけ」は昨年度より若干減り、「資格や将来のための自主的な勉強」は 4 ポイント弱上昇した。社会状況をみすえて、就活にそなえるスキルを磨こうとする学生が増えつつあるということだろう。また、「授業のためとそれ以外の自主的な勉強」が毎年少しづつ上がっていることは、学習に取り組む姿勢が向上しているということだとすれば、これを積極的に促進するような授業外学習の指導や様々な教育的工夫が必要

となるだろう。この設問は日本人学生と留学生で大きく異なる回答がでた。「授業の予習復習だけ」の回答は、日本人学生 42.6%に対して、留学生は 29.1%であり、10ポイント以上の違いがあった。また将来に備えているのも留学生の方が数値が高く 49.4%である一方、日本人学生は 25.9%とほぼ倍近く違うという結果が出た。

F. コース選択 (67~71) <コースを選んだ理由を問う>

【設問 67】「コースの授業は自分の興味・関心にあっている」

67 コースの授業は自分の興味・関心にあっている。	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	64.9	70.0
どちらともいえない	28.2	23.9
当てはまらない	6.9	6.1
計	100	100

昨年度までの三年間「当てはまる」との回答が減少していたが、今年度は 70%へと再び上昇した。「どちらともいえない」、「当てはまらない」、いずれも数値が下がっているが、学生の関心に沿った新しい教育課程プログラムの成果が出て来たといえるかどうかについては、今しばらく様子を見るべきで、早計に判断はできない。全体的な回答の傾向は、昨年同様、日本人学生と留学生はほぼ同じ回答数値を示している。

【設問 68】「自分の能力を生かすことができる」

68 自分の能力を生かすことができる	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	43.3	46.2
どちらともいえない	50.2	46.2
当てはまらない	6.5	7.5
計	100	100

68 自分の能力を生かすことができる	(日本人学生・留学生別)	
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
当てはまる	41.2 (37.8)	58.8 (64.7)
どちらともいえない	49.2 (55.6)	38.8 (29.4)
当てはまらない	9.5 (6.6)	2.5 (5.9)
計	100	100

前問と同じような傾向がみられた。「当てはまる」が上向きで、「どちらともいえない」が下がった。ただ、「当てはまらない」が若干上がっており、昨年度とは逆に、自分の能力についてある程度把握でき始めているとみてよいのか、分析に難渋するところである。日本人学生と留学生別では、留学生の「どちらともいえない」が 10 ポイント近く急増しており、日本人学生の 6 ポイント低下と逆の傾向を示した。

【設問 69】「希望する職業につくことにむすびつきそうである。」

69 希望する職業につくことにむすびつきそうである	(日本人学生・留学生別)	
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
当てはまる	46.2 (43.0)	67.5 (47.2)

どちらともいえない	40.7 (43.5)	31.2 (50.9)
当てはまらない	13.1 (13.3)	1.3 (1.9)
計	100	100

「当てはまる」との回答が8ポイント以上伸び、「どちらともいえない」が7ポイント程度下がった。昨年度の分析にもあるように、本学の教育・研究活動が希望する職業と直結していることが大学教育の本来の姿であるとは思われない一方で、そうした授業の中で将来生かせるような汎用的な能力の学びに学生が自覚できるような側面も持たせる必要があることは大学側も意識せざるを得なくなってきた。日本人学生と比べると、留学生の方が将来の職業とのつながりを強く意識している。

【設問 70】「そのコースの先生方と気が合う」

70 そのコースの先生方と気が合う	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	43.9	49.1
どちらともいえない	46.3	45.6
当てはまらない	9.8	5.4
計	100	100

いずれの回答も上がることが望まれる項目が上がり、逆は下がる結果ではあるが、どれも若干であり、強い傾向がみられたわけではない。各教員に対する評価は一律ではないであろうし、教員の顔触れが変わる、各コースの教員数の多少などによっても異なるから、今年度下がった「当てはまらない」の数値ができるだけ低くなるような体勢になるよう取り組むことであろう。

【設問 71】「クラスメート達と気が合う」

71 クラスメート達と気が合う。	(昨年度との比較)	
	2012 年度	2013 年度
当てはまる	55.2	64.6
どちらともいえない	36.0	30.7
当てはまらない	8.8	4.7
計	100	100

71 クラスメート達と気が合う。	(日本人学生・留学生別)	
	日本人学生 (昨年)	留学生 (昨年)
当てはまる	59.1 (55.3)	78.5 (54.9)
どちらともいえない	35.9 (35.1)	17.7 (39.2)
当てはまらない	5.1 (9.6)	3.8 (5.9)
計	100	100

「当てはまる」が昨年度より10ポイント近く上昇したことは同慶の至りであるが、気が合うことからさらにコミュニケーションの場が広がっていくことも示している数値であればさらに喜ばしいことである。ただ、教員と学生間や、日本人学生と留学生間などでも高かつ同じような数値が回答で出るようにしたいものである。今年度は留学生の数値が昨年度とかなり異なる数値が出ている。